

# **2012年度（13年3月期） 第1四半期決算概要**

**2012年7月31日**

**日本電気株式会社**

(<http://www.nec.co.jp/ir/ja>)

# 目 次

## I. 第1四半期 決算概要

## II. 上期業績予想サマリー

- 決算概要（補足）
- 業績予想（補足）
- 参考資料（業績データ）

※ 2012年7月6日発表の「セグメントの変更のお知らせ」にてお知らせしたとおり、当第1四半期連結会計期間から、セグメントを変更しています。  
また、前年同期の数値についても新たなセグメントに組み替えて表示しています。



# **I . 第1四半期 決算概要**

# 第1四半期 概況サマリー

**売上高は、事業の非連結化の影響により減収\*も  
損益は、各項目で100億円超の改善（前年同期比）**

（単位：億円）

	第1四半期 <4～6月>		
	11年度 実績	12年度 実績	前年 同期比
売上高	6,691	6,315	△ 5.6%
営業損益	△ 194	△ 79	116
経常損益	△ 296	△ 122	175
当期純損益	△ 297	△ 179	118
1株当たり 当期純損益（円）	△ 11.43	△ 6.87	4.56
フリーキャッシュフロー	165	267	101

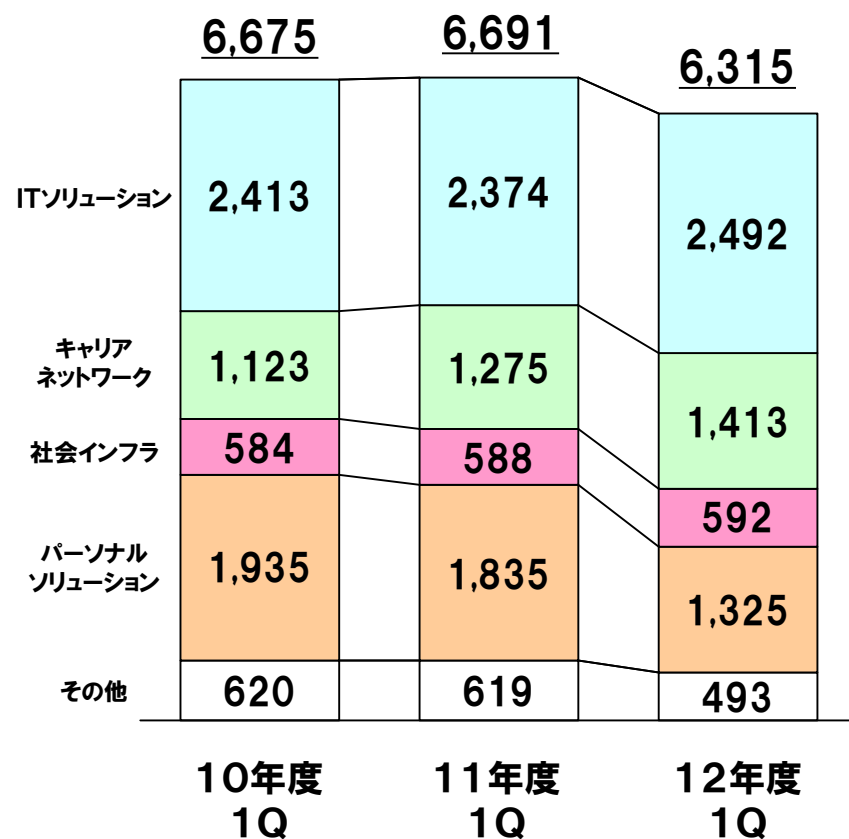
\* 事業の非連結化の影響を  
除くと約1%の増収  
（個人向けPC事業、液晶事業）

参考：第1四半期の売上平均為替レート（実績）1ドル＝81.25円、1ユーロ＝106.09円

# セグメント別 第1四半期実績

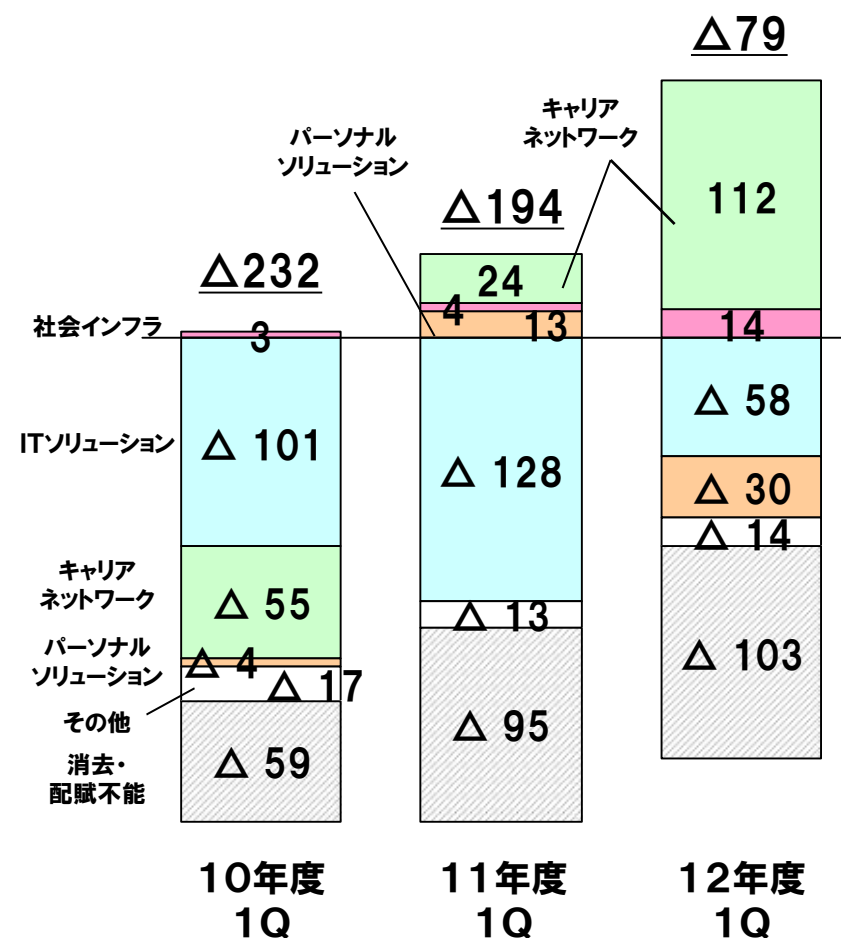
第1四半期

## 売上高



## 営業損益

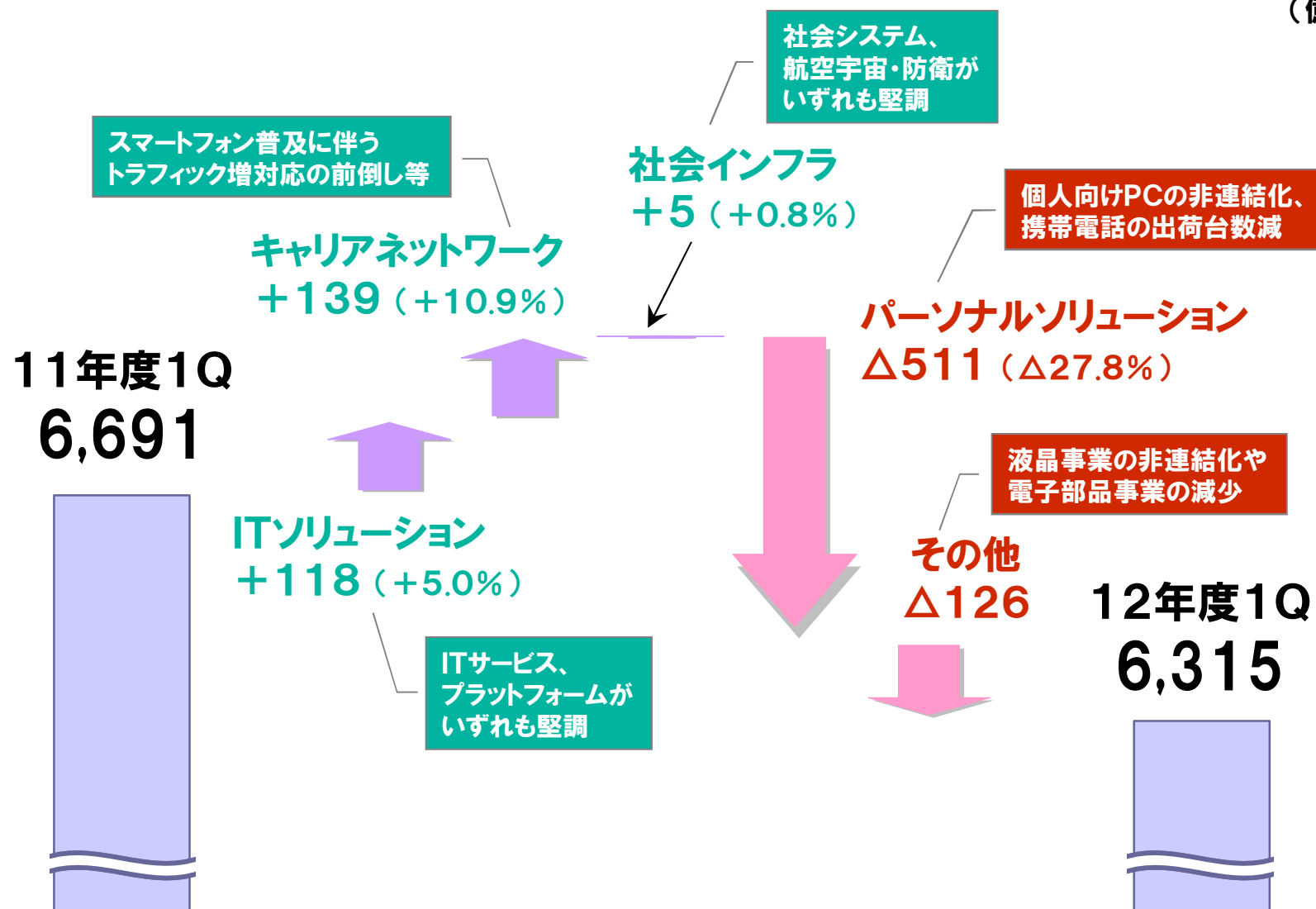
(億円)



# 売上高増減（前年同期比）

第1四半期

（億円）

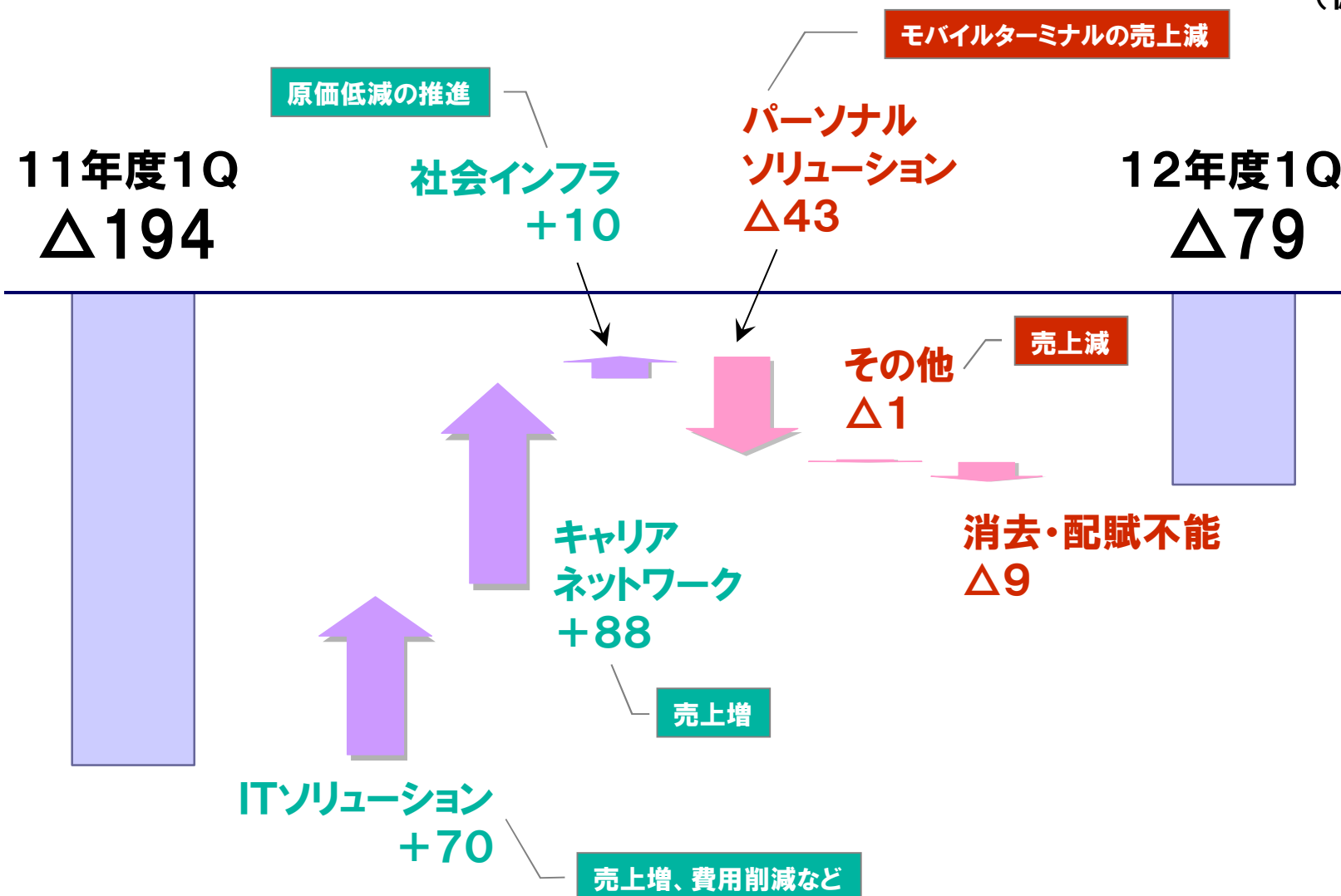




# 営業損益増減（前年同期比）

第1四半期

（億円）

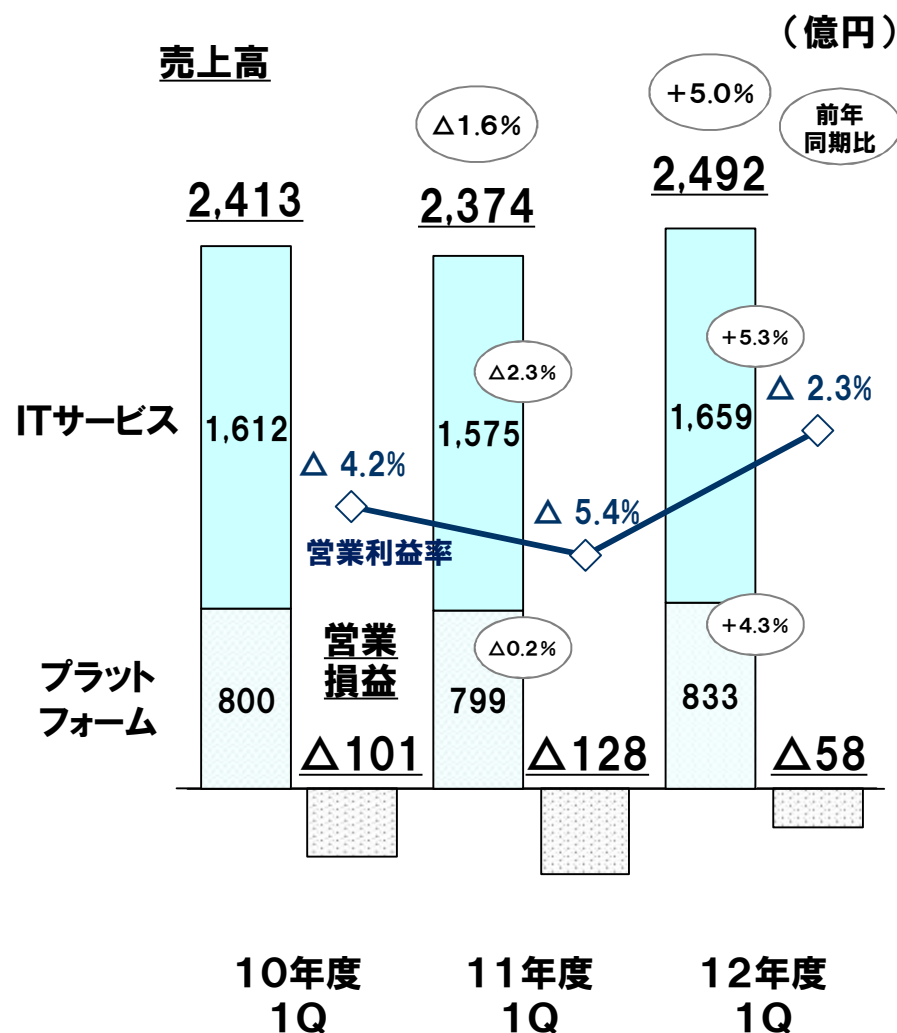


# セグメント別 第1四半期実績のポイント（前年同期比）

IT ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>● ITサービス、プラットフォームがいずれも堅調で増収</li><li>● 売上増や費用削減などにより増益</li></ul>
キャリア ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"><li>● スマートフォン普及に伴うトラフィック増対応の前倒し等で増収</li><li>● 売上増により増益</li></ul>
社会インフラ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 社会システム、航空宇宙・防衛がいずれも堅調でほぼ前年並み</li><li>● 売上はほぼ前年並みも原価低減の推進などにより増益</li></ul>
パーソナル ソリューション	<ul style="list-style-type: none"><li>● 個人向けPCの非連結化、携帯電話の出荷台数減により減収</li><li>● モバイルターミナルの売上減により減益</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>● 液晶事業の非連結化や電子部品事業の減少などにより減収</li><li>● 費用削減を推進も売上減などによりほぼ前年同期並み</li></ul>

※ 各セグメントの上段は売上高、下段は営業損益に関するポイント





**売上高 2,492億円 (+5.0%)**

△ ITサービス  
通信業、製造業、流通サービス業向け  
などで堅調

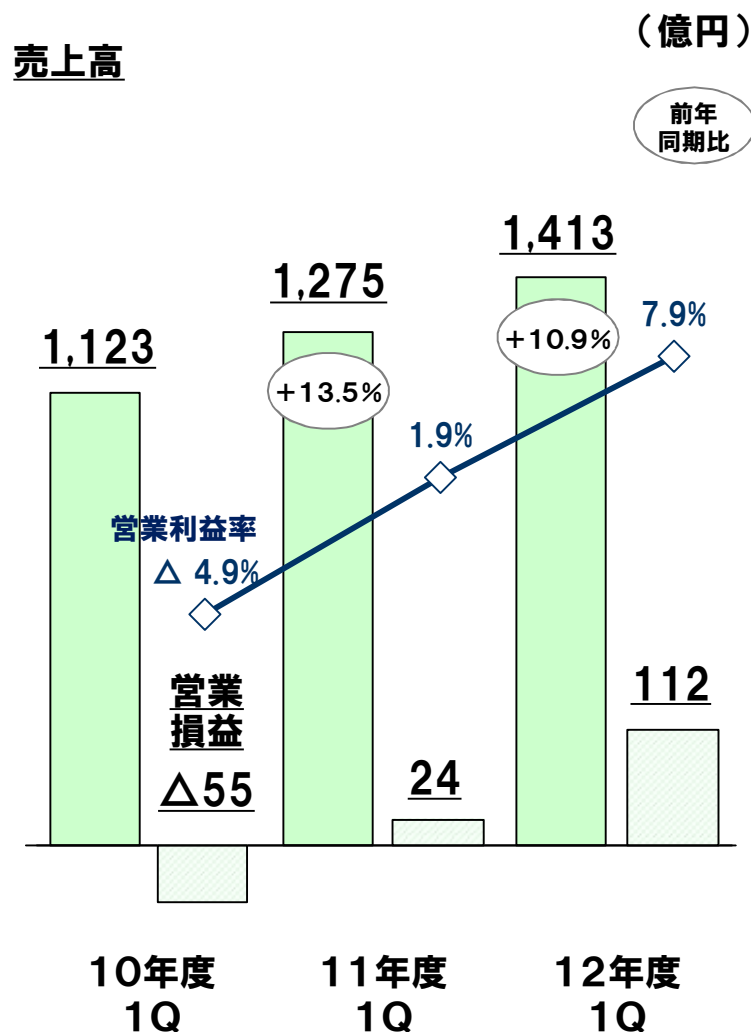
△ プラットフォーム  
大型案件によりハードウェア、  
企業ネットワークを中心に増加

**営業損益 △58億円 (+70億円)**

△ 売上の増加や費用削減などにより改善



※ カッコ内の%は前年同期比



**売上高 1,413億円 (+10.9%)**

△トラフィック増対応の前倒しなどにより  
国内事業が堅調に推移

**営業利益 112億円 (+88億円)**

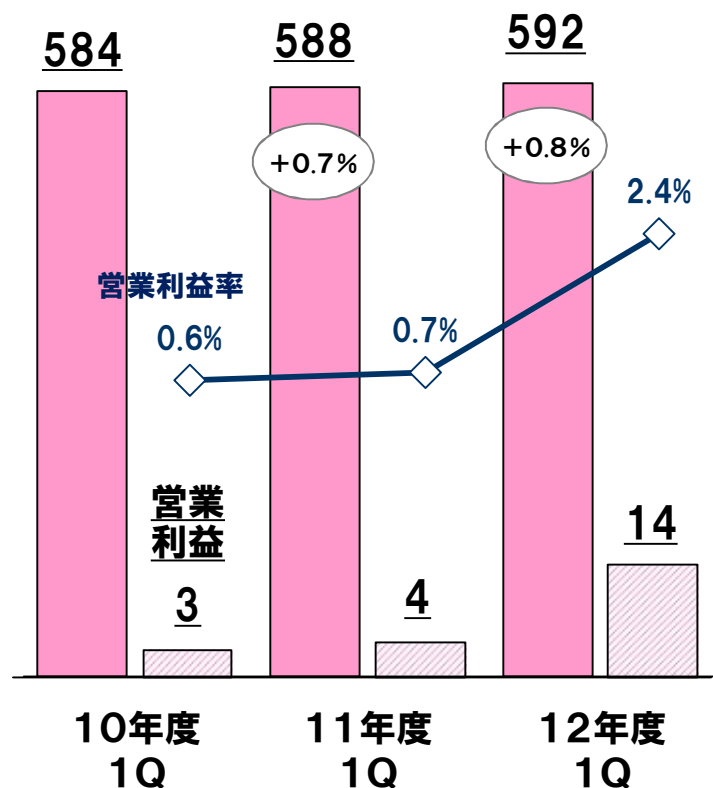
△国内事業の増収により増益



※ カッコ内の%は前年同期比

売上高 (億円)

前年  
同期比



**売上高 592億円 (+0.8%)**

△ 社会システム分野、航空宇宙・防衛分野  
がいずれも堅調に推移

**営業利益 14億円 (+10億円)**

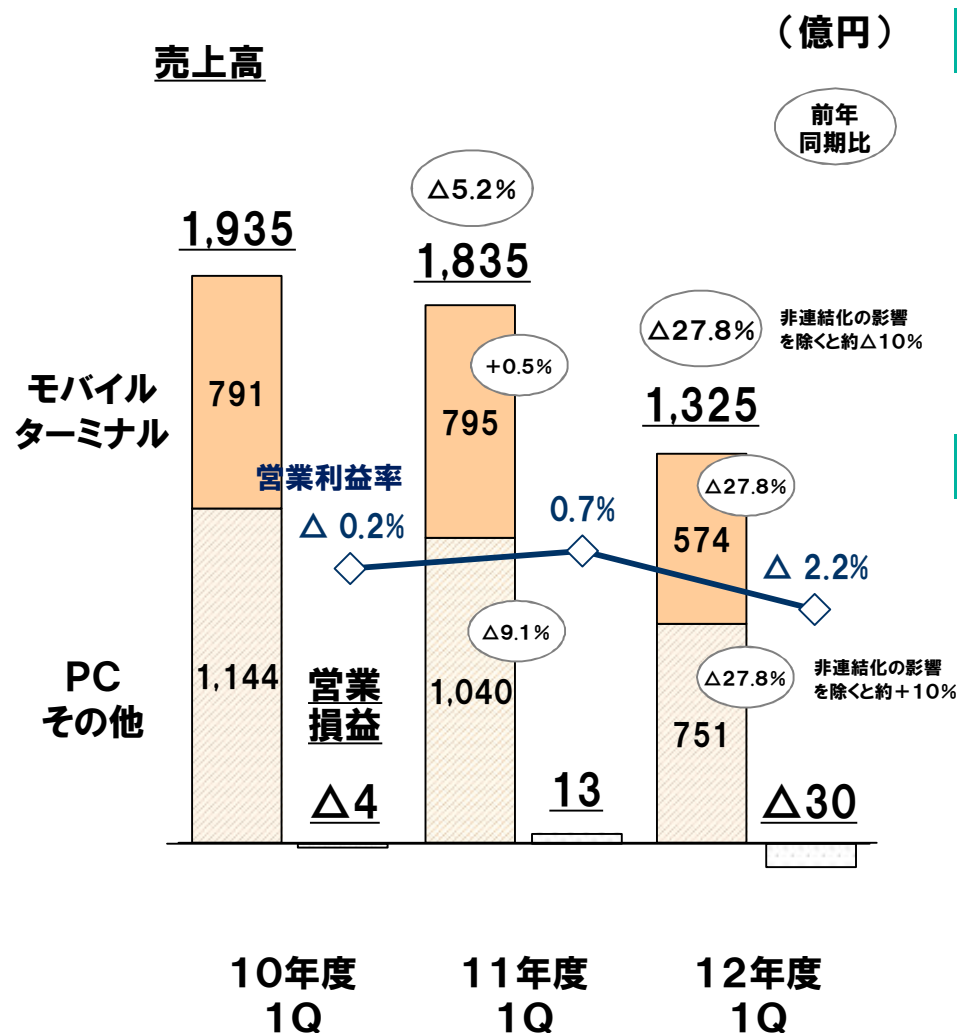
△ 売上高はほぼ前年並みも  
原価低減の推進などにより増益



※ カッコ内の%は前年同期比

# パーソナルソリューション事業

第1四半期



**売上高 1,325億円 (△27.8%)**

- ▽ モバイルターミナル  
携帯電話の出荷台数減により減収
- ▽ PCその他  
個人向けPCの非連結化により減収

**営業損益 △30億円 (△43億円)**

- ▽ モバイルターミナルの売上減の影響により悪化

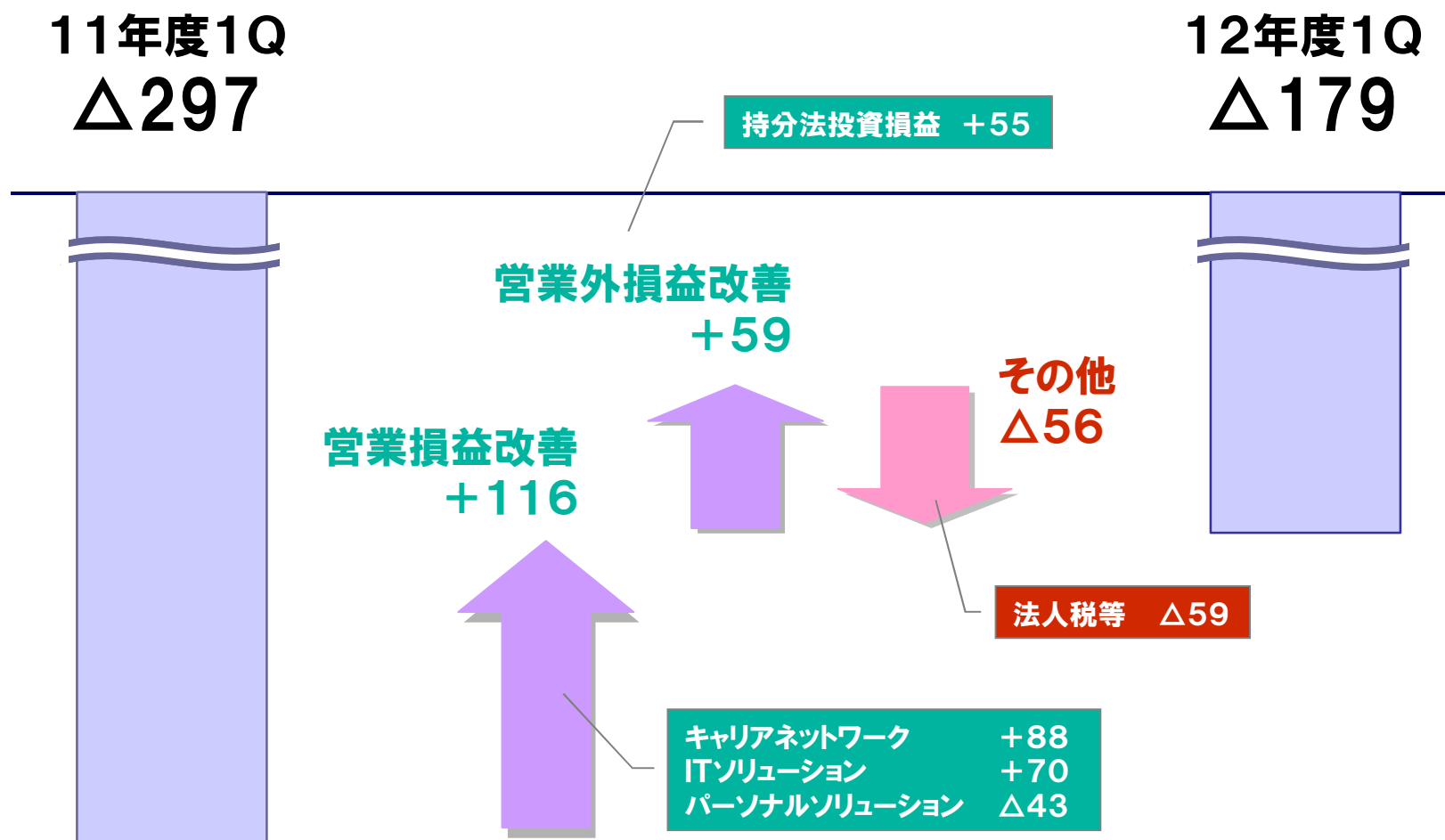



※ カッコ内の%は前年同期比

# 当期純損益増減（前年同期比）

第1四半期

（億円）





## II. 上期業績予想サマリー



# NECの経営方針

**■ マクロ環境・事業環境の急回復が見込めない中、  
現状の売上高レベルでも安定的な収益をあげる  
効率的な事業運営**

**⇒ 構造改革の断行**

**⇒ 注力分野への集中投資で成長基盤を構築**

**“CS No.1” “Global First” “One NEC”**

# 上期業績予想サマリー

(単位:億円)

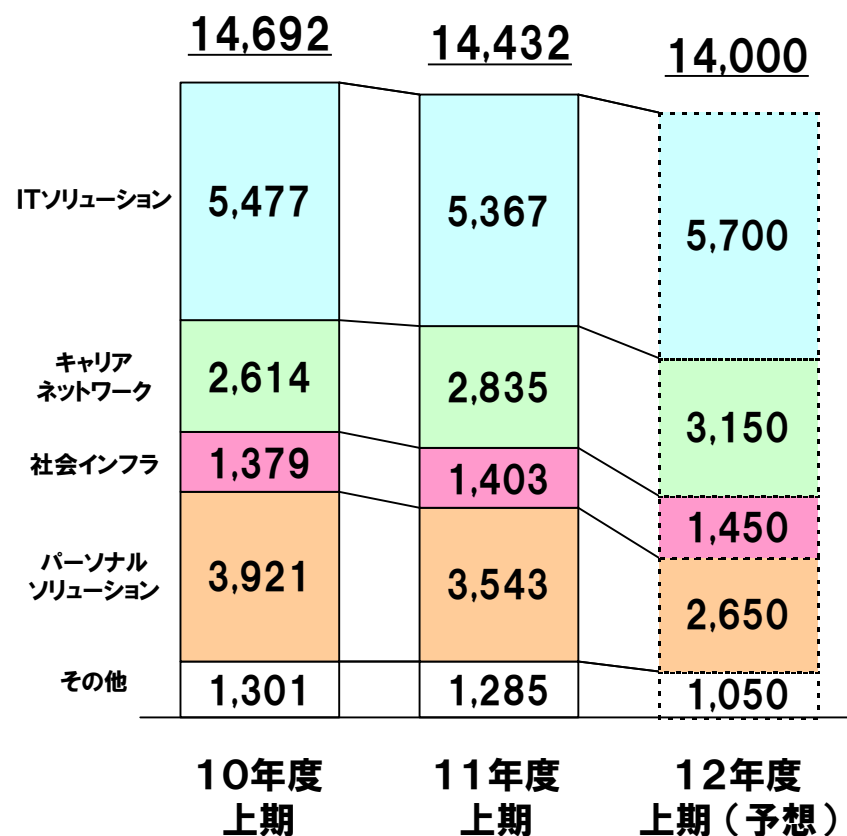
	上期 <4～9月>			通期		
	11年度 実績	12年度 予想(注)	前年 同期比	11年度 実績	12年度 予想(注)	前年度比
売 上 高	14,432	14,000	△ 3.0%	30,368	31,500	3.7%
営 業 利 益	68	10	△ 58	737	1,000	263
対売上高比率(%)	0.5%	0.1%		2.4%	3.2%	
経 常 損 益	△ 104	△ 160	△ 56	421	700	280
対売上高比率(%)	-	-		1.4%	2.2%	
当 期 純 損 益	△ 110	△ 240	△ 130	△ 1,103	200	1,303
対売上高比率(%)	-	-		-	0.6%	
1 株 当 た り 当期純損益(円)	△ 4.23	△ 9.24	△ 5.01	△ 42.44	7.70	50.14

参考：12年度の為替レート前提 1ドル=75円、1ユーロ=100円

※ 予想値は、2012年7月31日現在(注：上期および通期予想は、4月27日の前回予想から変更はありません)

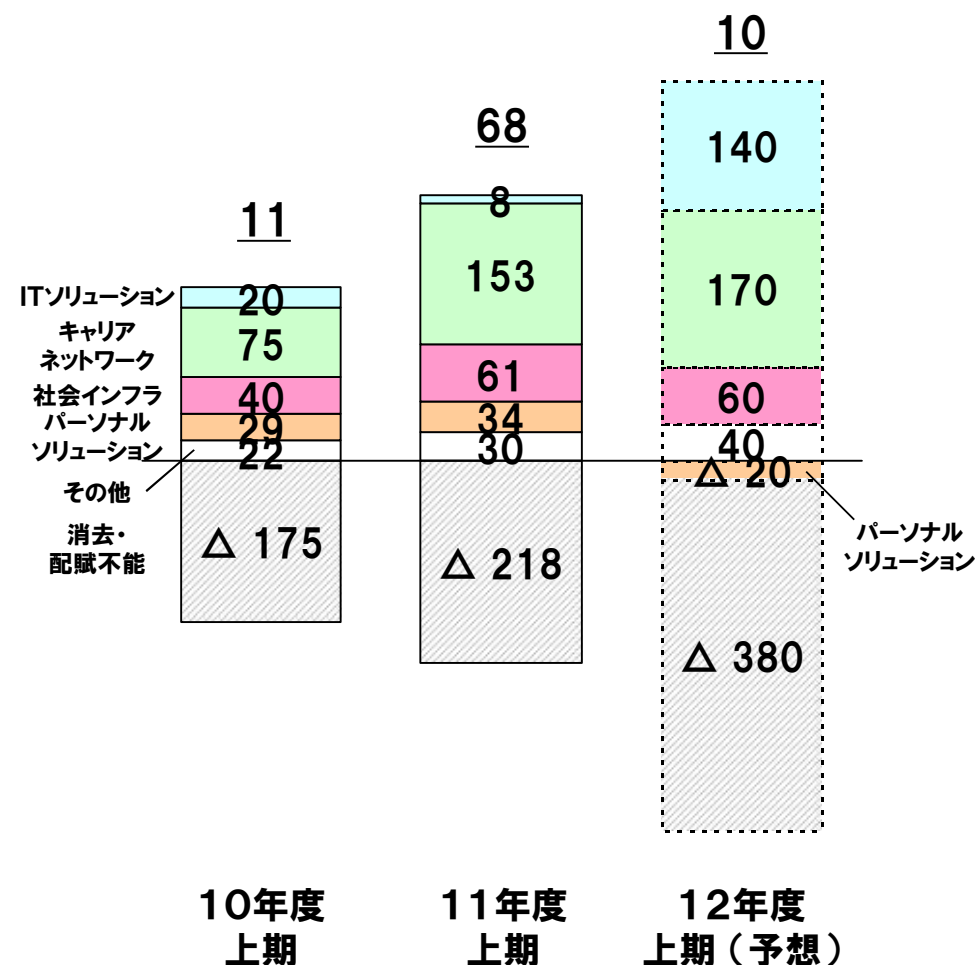
# セグメント別 上期業績予想

## 売上高



## 営業損益

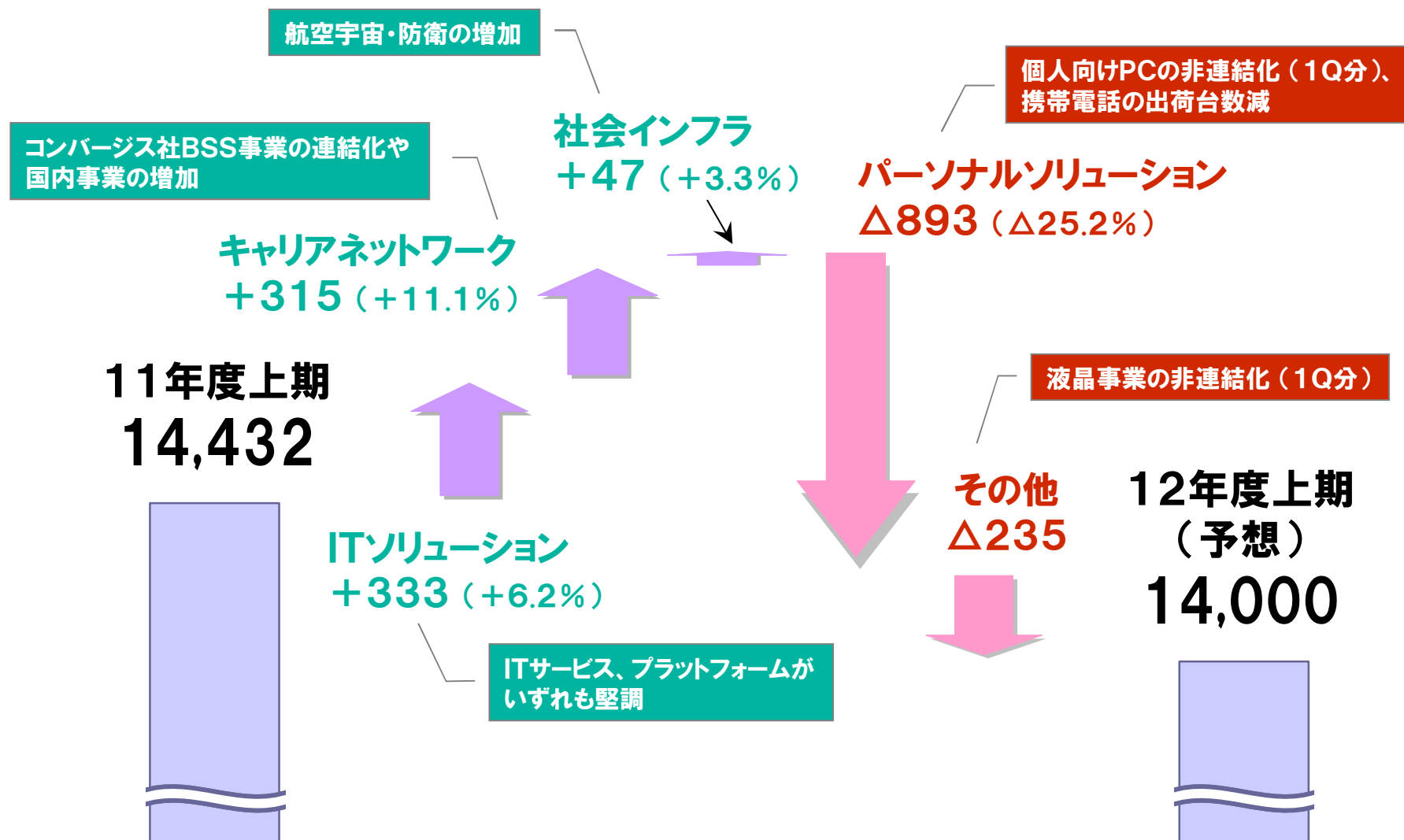
(億円)



※ 予想値は、2012年7月31日現在

# 売上高増減（前年同期比）

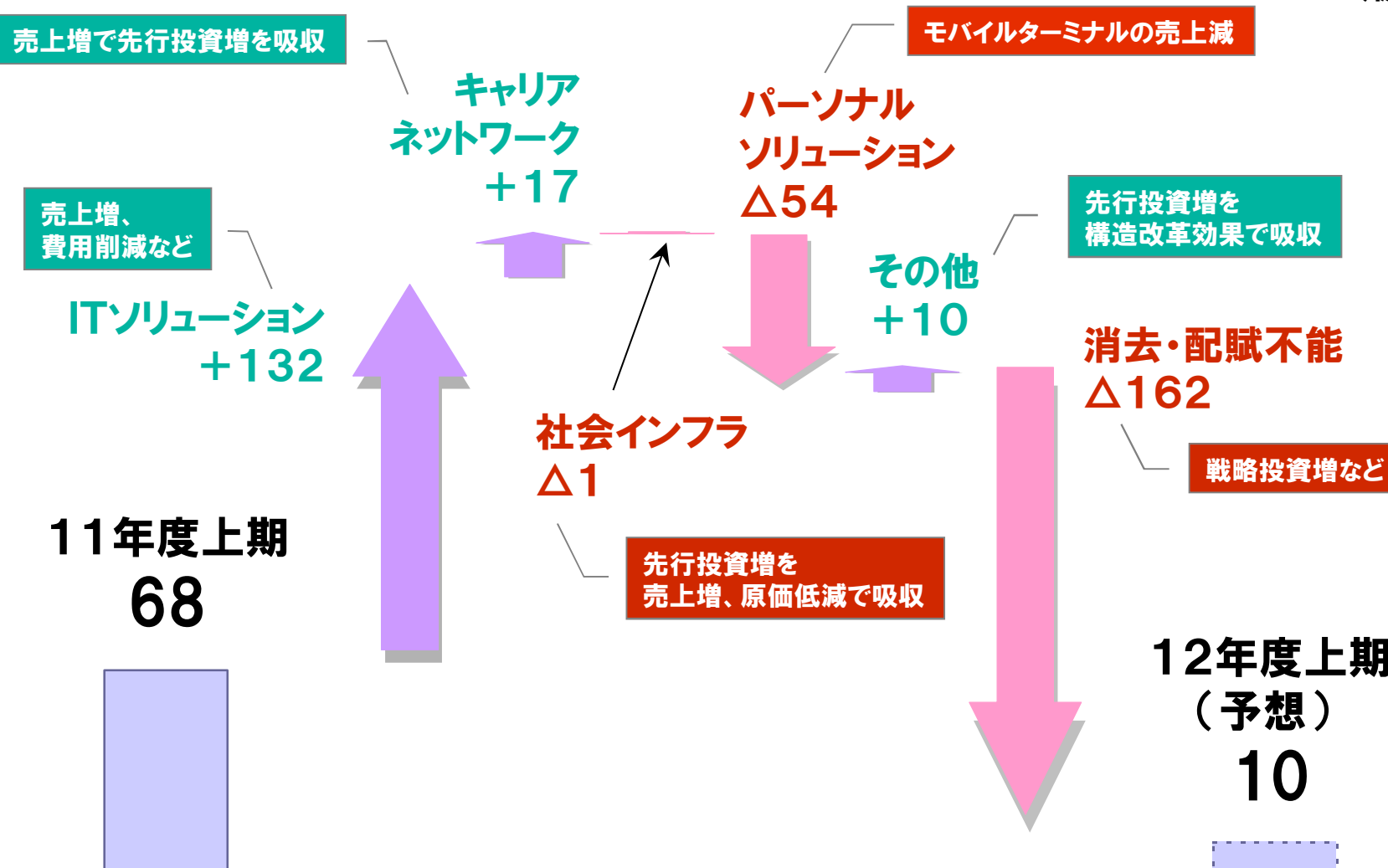
（億円）



※ 予想値は、2012年7月31日現在

# 営業損益増減（前年同期比）

（億円）



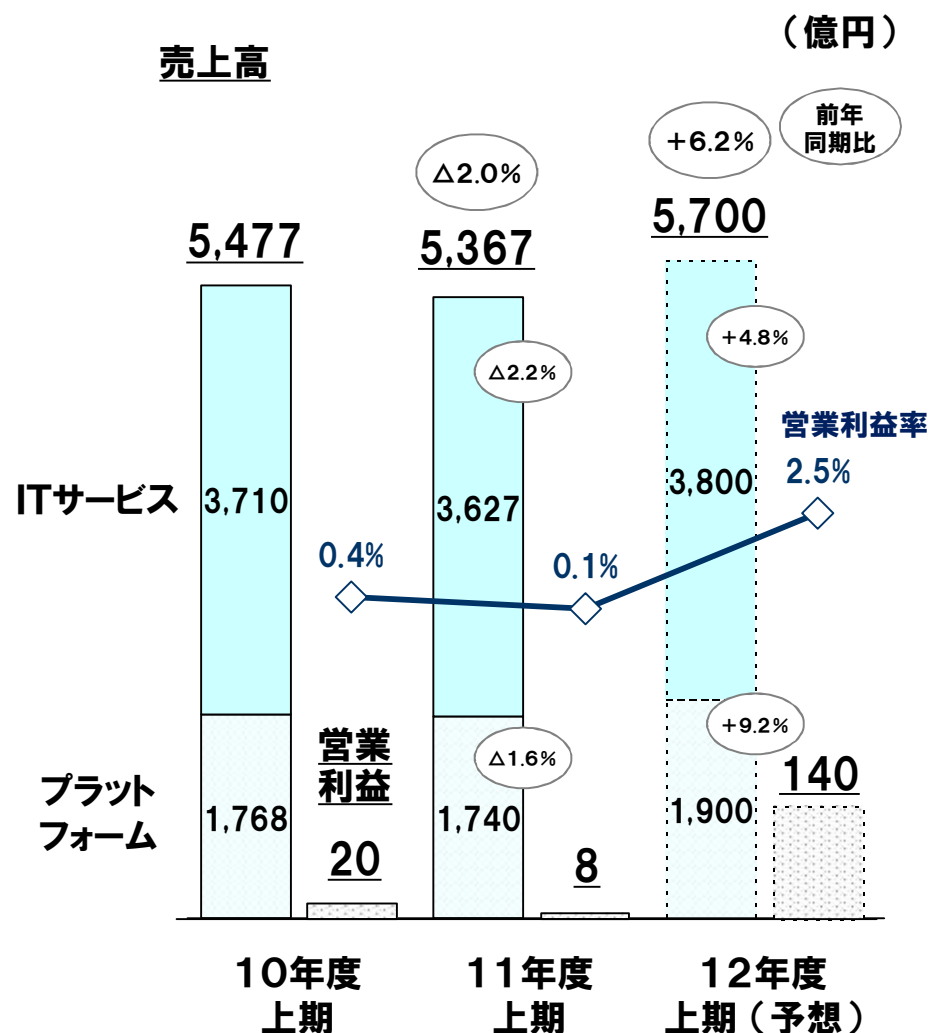
※ 予想値は、2012年7月31日現在

# セグメント別 上期業績予想のポイント（前年同期比）

IT ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ITサービス、プラットフォームがいずれも堅調で増収</li> <li>● 売上増や費用削減などにより増益</li> </ul>
キャリア ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンバージス社BSS事業の連結化や国内事業の増加で増収</li> <li>● 売上増で先行投資増を吸収し増益</li> </ul>
社会インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 航空宇宙・防衛分野の増加により増収</li> <li>● 先行投資増を売上増、原価低減で吸収してほぼ前年並み</li> </ul>
パーソナル ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人向けPCの非連結化、携帯電話の出荷台数減により減収</li> <li>● モバイルターミナルの売上減により減益</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 液晶事業の非連結化などにより減収</li> <li>● 先行投資増を構造改革効果で吸収し増益</li> </ul>

※ 各セグメントの上段は売上高、下段は営業損益に関するポイント





**売上高 5,700億円 (+6.2%)**

## △ ITサービス

製造業、流通サービス業を中心とした投資の再開に加え、引き続き堅調な通信事業者などで増収を見込む

## △ プラットフォーム

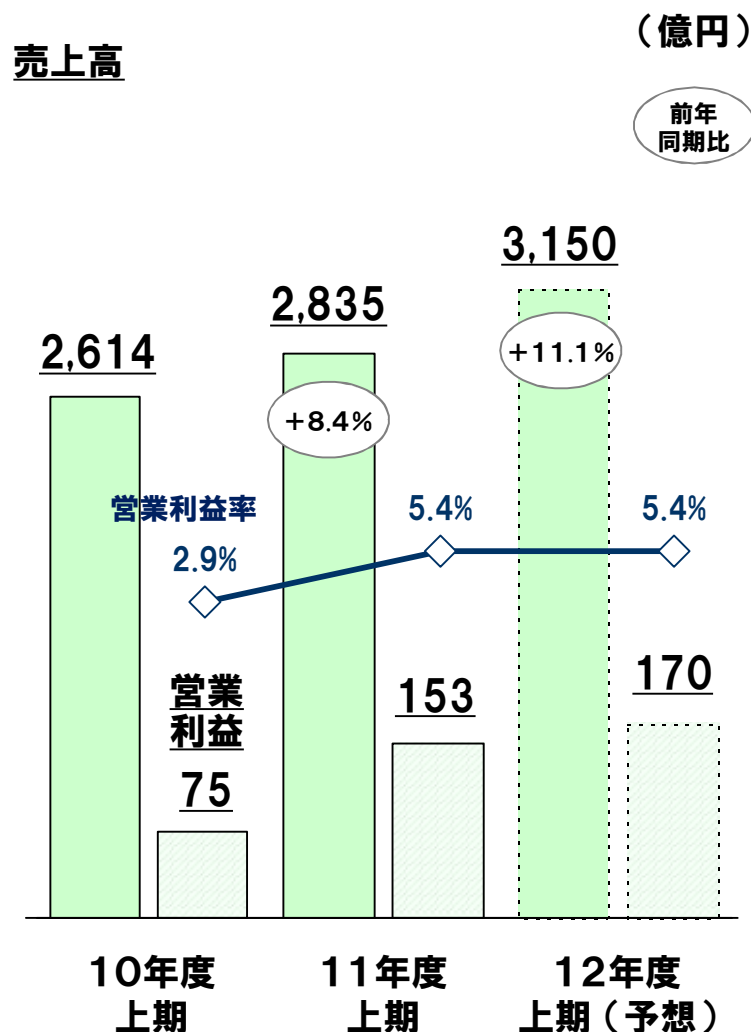
大型案件によりハードウェア、企業ネットワークを中心に増収を見込む

**営業利益 140億円 (+132億円)**

△ 売上増、費用削減などにより増益を見込む



※予想値は、2012年7月31日現在、カッコ内の%は前年同期比



**売上高 3,150億円 (+11.1%)**

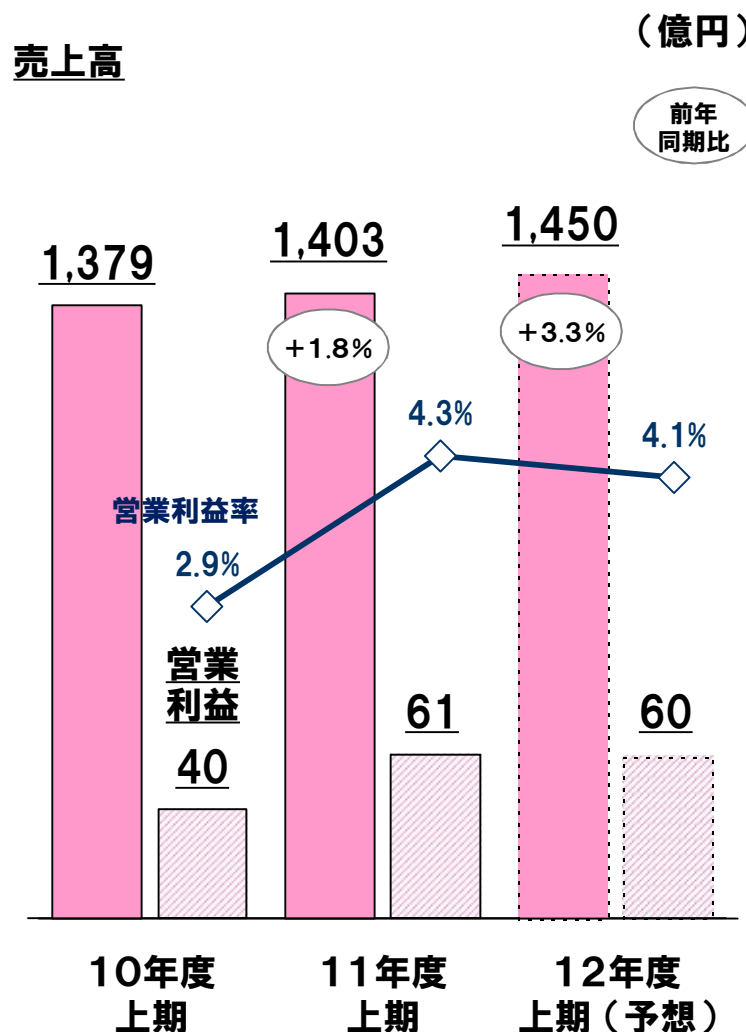
- △ 国内事業はデータトラフィック増などの需要拡大による事業機会を獲得
- △ 海外事業はコンバージェス社BSS事業の連結化や海洋システムの拡大を中心に増収を見込む

**営業利益 170億円 (+17億円)**

- △ 売上増で将来の成長に向けた先行投資増を吸収し増益を見込む



※予想値は、2012年7月31日現在、カッコ内の%は前年同期比



**売上高 1,450億円 (+3.3%)**

- △ 社会システム分野で消防・防災が堅調に推移し微増
- △ 航空宇宙・防衛システム分野の増加により増収を見込む

**営業利益 60億円 (△1億円)**

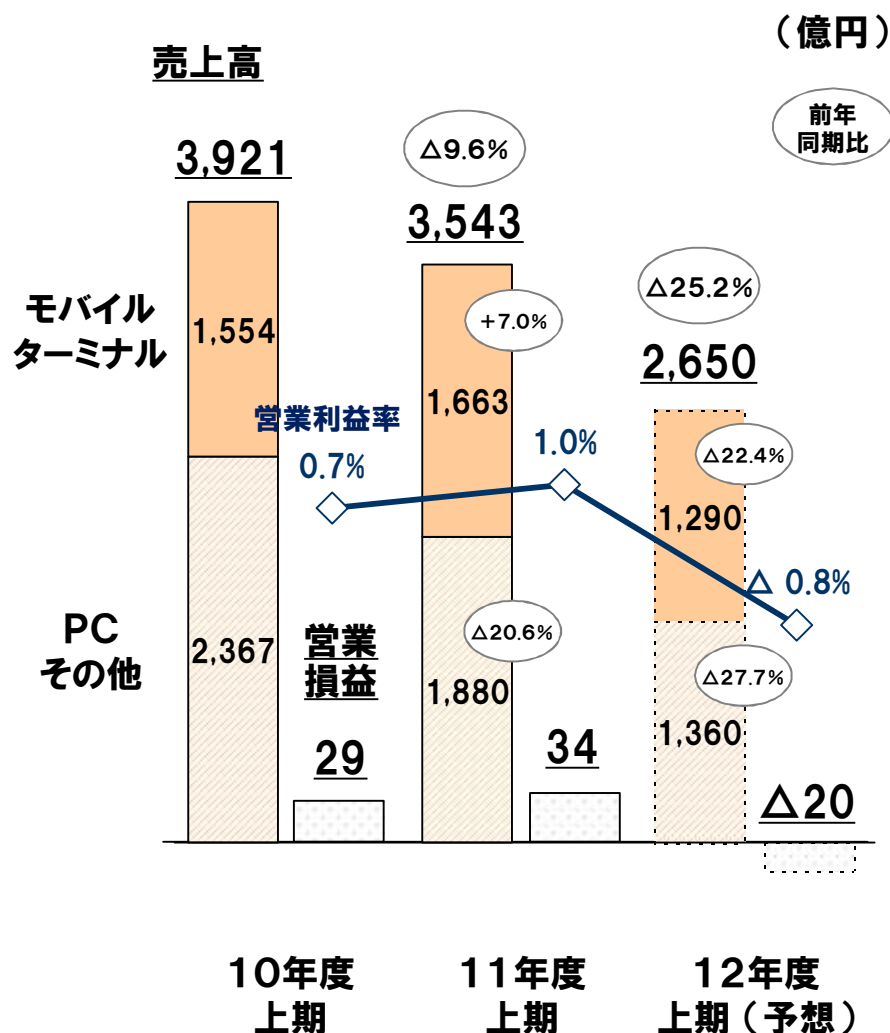
- ▽ 先行投資増も売上増、原価低減で吸収しほぼ前年並み



※予想値は、2012年7月31日現在、カッコ内の%は前年同期比

# パーソナルソリューション事業

上期予想



**売上高 2,650億円 (△25.2%)**

- ▽ モバイルターミナル  
国内フィーチャーフォンの出荷台数減少などにより減収を見込む
- ▽ PCその他  
個人向けPCの非連結化、欧州を中心とした景気後退の影響などにより減収を見込む

**営業損益 △20億円 (△54億円)**

- ▽ モバイルターミナルの売上減により減少を見込む



※予想値は、2012年7月31日現在、カッコ内の%は前年同期比

# 4本柱への注力の状況

## ITサービス

- オーストラリア CSG社 ITサービス事業の買収完了
- 成長領域のソリューションメニュー拡充（ビッグデータコンサルサービス、製造業向けM2Mソリューションなど）

## 社会インフラ

- 第一期水循環変動観測衛星「しずく」の打上げ成功
- マルチメディア放送「モバキャス」用デジタル送信機を納入

## キャリアネットワーク

- スマートフォン関連需要/LTE事業機会の確実な刈り取り
- ネットクラッカー社OSS事業とコンバージス社BSS事業との一体運営開始

## エネルギー

- GSユアサへの電極供給に基本合意
- 小型蓄電システムの出荷開始



# まとめ

## 第1四半期実績

- 売上高は事業の非連結化の影響を除くと約1%の増収
  - ・ キャリアネットワーク、ITソリューションが増収

（個人向けPC事業、液晶事業の非連結化を含むと前年同期比で5.6%の減収）

- 営業損益は改善（前年同期比 +116億円）
- 会社計画比では、損益を中心に順調に進捗

## 上期業績予想

- 好調なセグメントを中心にさらなる上積みを目指す

**9月末での構造改革完遂、  
上期業績予想の実現に向けて、取り組みを加速**



Empowered by Innovation

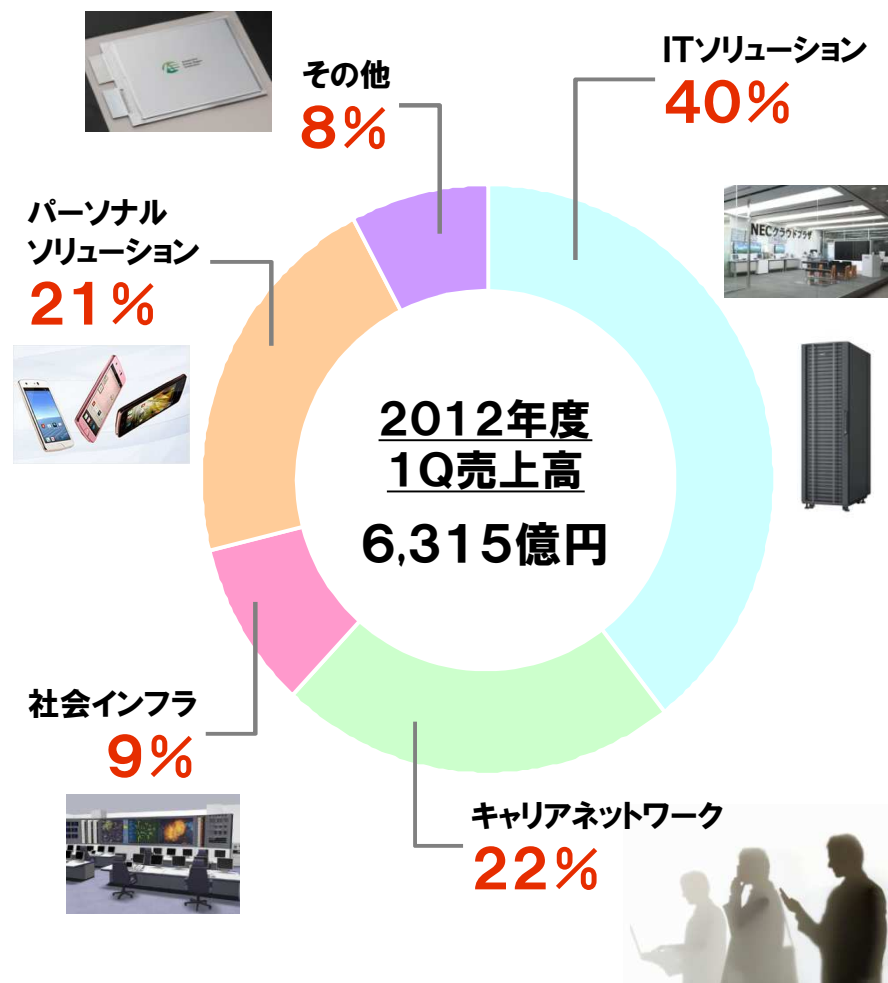
**NEC**



## 決算概要（補足）

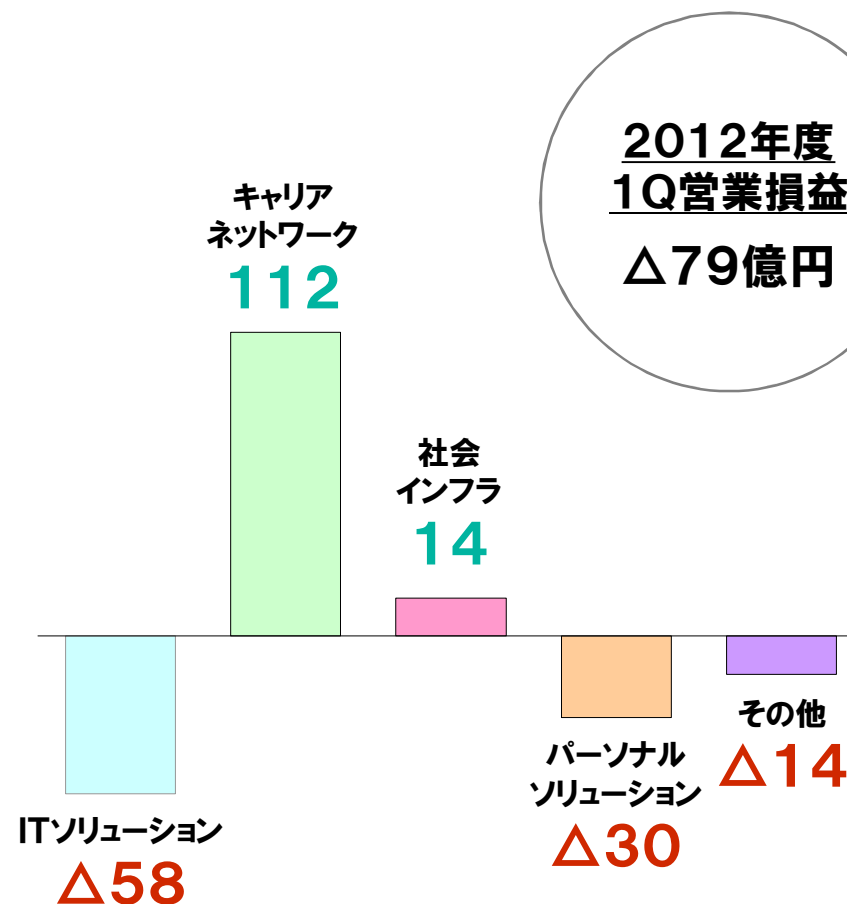
# セグメント別 第1四半期実績サマリー

## 売上高



## 営業損益

(億円)



## セグメント別 第1四半期実績サマリー

(単位:億円)

			第1四半期 <4～6月>		
			11年度 実績	12年度 実績	前年 同期比
	ITソリューション	売上高 営業損益 営業利益率(%)	2,374 △ 128 -	2,492 △ 58 -	5.0% 70
	キャリアネットワーク	売上高 営業利益 営業利益率(%)	1,275 24 1.9%	1,413 112 7.9%	10.9% 88
	社会インフラ	売上高 営業利益 営業利益率(%)	588 4 0.7%	592 14 2.4%	0.8% 10
	パーソナル ソリューション	売上高 営業損益 営業利益率(%)	1,835 13 0.7%	1,325 △ 30 -	△ 27.8% △ 43
	その他	売上高 営業損益 営業利益率(%)	619 △ 13 -	493 △ 14 -	△ 20.4% △ 1
	消去・配賦不能	営業損益	△ 95	△ 103	△ 9
合	計	売上高 営業損益 営業利益率(%)	6,691 △ 194 -	6,315 △ 79 -	△ 5.6% 116

# 海外売上高

第1四半期

(単位:億円)

		第1四半期 <4～6月>		
		11年度 実績	12年度 実績	前年 同期比
アジア	売上高	310	361	16.3%
	連結売上高比率(%)	4.6%	5.7%	
欧州	売上高	243	178	△ 26.9%
	連結売上高比率(%)	3.6%	2.8%	
その他	売上高	598	436	△ 27.1%
	連結売上高比率(%)	8.9%	6.9%	
合 計	売上高	1,151	974	△ 15.4%
	連結売上高比率(%)	17.2%	15.4%	

主な国または地域

中国、台湾、インド、  
シンガポール、インドネシア

イギリス、フランス、オランダ、  
ドイツ、イタリア、スペイン

アメリカ

※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

# 財政状態に関する経営指標

(単位:億円)

	12/3末	12/6末	12/3末比	11/6末
総 資 産	25,576	23,717	△ 1,858	24,657
純 資 産	7,776	7,457	△ 319	8,437
有利子負債残高	6,927	6,417	△ 510	6,461
自 己 資 本 自己資本比率(%)	6,570 25.7%	6,263 26.4%	△ 307 0.7pt	7,263 29.5%
D/Eレシオ(倍)	1.05	1.02	0.03pt	0.89
ネットD/Eレシオ(倍)	0.67	0.67	0.00pt	0.63
現金及び現金同等物の 期 末 残 高	2,518	2,220	△ 298	1,881



# 《参考》貸借対照表の状況（12／6末）

**総資産 2兆3,717億円**（前年度末比  $\Delta 1,858$ 億円）

## 流動資産

1兆3,187億円

売掛債権の回収など

$\Delta 1,958$

## 固定資産

1兆531億円

事業買収により  
無形固定資産が増加

+99

## 負債

1兆6,260億円

支払手形及び買掛金や  
未払費用が減少、  
コマーシャル・ペーパー償還

$\Delta 1,540$

## 純資産

7,457億円

四半期純損失の計上など

$\Delta 319$

前年度末比

# 《参考》主要な新製品・新ソリューション

(発表日)

- ビッグデータ活用に関するコンサルティングサービス「ビッグデータディスクバリープログラム」を提供 (7/17)
- クラウドサービス中核拠点として都内に「NEC東京第三データセンター」を新たに開設 (7/17)
- NEC、ネポン、JA全農が農業ICTクラウド事業で協業 (7/13)
- スマートデバイスを活用した低価格クラウドPOSサービスを発売～タブレット端末で精算や決済などを実現～ (7/10)
- 「UNIVERGE PFシリーズ」(プログラマブルフロー) を機能強化～「OpenFlow/SDN」技術を活用～ (7/2)
- 外食業の業務効率化と売上拡大に貢献するクラウドサービス「NeoSarf/FoodService」を発売 (6/29)
- 現行機比、CPU性能を3.5倍に向上・消費電力を60%削減する「ACOSシリーズ」の大型機「i-PX9800/A100」を発売 (6/28)
- 自社のSCMノウハウをもとに製造業の「ものづくり」を革新・強化するビジネスを開始～竹内製作所から受注～ (6/19)
- 薄さ・軽さを追求したAndroid (TM) 4.0搭載10.1型タブレット「LifeTouch (R) L」を個人向け・ビジネス向けに発売 (6/18)
- 「スマートデバイス活用ソリューション」を体系化～企業のワークスタイル改革を総合的に支援～ (6/15)
- 屋外向け小型軽量の超小型マイクロ波通信システム「iPASOLINK」シリーズを国内で販売開始～ (6/12)
- モバイル端末を利用した画像認識サービスを発売～食品や自動車の詳細情報を表示～ (5/22)
- センサ情報の収集・分析や機器制御等を統合的に実現する組込みM2Mモジュールを発売 (5/9)
- 従来比1.6倍の大容量通信が可能な基幹マイクロシステム「5000iP シリーズ」を発売 (4/23)
- スペイン最大のSlerインドラ社とクラウド分野で提携 (4/23)
- マイクロソフトと大企業向け業種別クラウド事業で戦略協業～「ワークスタイル変革ソリューション」～ (4/6)
- 企業やデータセンターの節電対策を支援する「Express5800シリーズ」40度対応モデルを拡充 (4/4)
- スマートフォンやタブレット端末の無線接続を簡単に設定できる無線LANルータ「Aterm」新商品を発売 (4/17)



「LifeTouch L」  
(ビジネス向け)



「i-PX9800/A100」

- ビッグデータに混在する多数の規則性を自動で発見する技術を開発～高精度な電力需要予測や病気の早期発見に貢献～ (6/22)
- 東北大と身近な熱源から発電できる新原理の素子を開発～電子機器や自動車などへの適用に向けて～ (6/18)
- 世界初、スピントロニクス論理集積回路の信頼性を向上する技術を開発～待機電力ゼロを実現する回路の実用化へ前進～ (6/11)
- ジェスチャで情報を操作できる自然なインタラクション技術を開発 (5/15)
- LTEフェムトセル基地局向けに通信速度を最大化する技術を開発～基地局同士の電波干渉を抑え、快適な通信を実現～ (5/10)
- 磁束が超伝導材料の細線を量子的にトンネルする現象を確認～超伝導現象の重要な理論的予言をついに実証～ (4/19)
- ペライゾンと光ファイバー上で伝送する高ビットレート転送技術の新記録を達成～フィールドで最高の伝送容量～ (4/3)

# 《参考》主要な広報発表（1/2）

（発表日）

## 〔受注/納入など〕

- アサヒグループホールディングスの共通IT基盤を構築～事業環境変化へ迅速に対応可能なシステム～（7/2）
- 子会社のネットクラッカー社が欧州最大の送電事業者フランスRTEに通信運用システムを提供（6/29）
- 「EXPLANNER/Lg」を用いてミスタードーナツの新物流システムを構築（6/27）
- ロシア最大の携帯電話事業者「MTS」にフェムトセルシステムを納入～シベリア地域での立ち上げに貢献～（6/25）
- 子会社のネットクラッカー社が、米国の通信事業者スプリント社に通信運用システムを提供（6/14）
- BPMソリューションビジネスを本格展開～三菱重工業神戸造船所の現場プロセス改善で採用～（6/14）
- 金沢大学附属病院が、新ネットワークにNECの「プログラマブルフロー」を導入（6/11）
- ベルギーの公共保安ネットワーク向けに超小型マイクロ波通信システム「iPASOLINK」を受注（5/28）
- 宮崎県3町（都農町、川南町、高原町）、熊本県錦町に基幹業務システムをクラウドで提供～全国初、県域を越えた利用～（5/25）
- 世界初の技術「ExpEther」を用いた製品を発売～大阪大学に導入決定～（5/24）
- 東京スカイツリー（R）向け地上デジタルテレビ放送用送信機を納入（5/21）
- JAXAの第一期水循環変動観測衛星「しずく」打上げで、主契約者としてシステム取りまとめ・製造・試験等を担当（5/18）
- 早稲田大学のプライベートクラウド環境構築を受注～共通IT基盤によりシステムを全体最適化～（5/7）



「ExpEtherクライアント」



地上デジタルテレビ放送用送信機  
（東京スカイツリーに納入）

# 《参考》主要な広報発表（2/2）

（発表日）

## 〔新事業など〕

- 消費電力インジケータ機能を追加した 経産省 補助金事業認定のBEMSを販売開始（7/2）
- GSユアサとリチウムイオン電池の主要部品の供給に基本合意（6/6）
- オフィスの節電対策を支援する省エネ オフィスサービス「エネパル（R）Office」および「エネパル（R）PCパック」を強化（6/22）
- 節電機能を強化したビジネスPC「Mate」「VersaPro」を発売～デスクトップPCもピークシフトに対応～（5/23）
- 昭和シェル石油のサービスステーションに設置したタブレット端末に、クラウドサービスでコンテンツを配信（5/18）
- エネルギー使用量の“見える化”機能を標準装備した中小規模向けビルオートメーションシステムを販売開始（5/15）
- オフィスやデータセンターの“電力見える化”に最適な「スマート分電盤」の販売を開始（4/16）

## 〔経営、提携・新会社設立・事業再編など〕

- セグメントの変更（7/6）
- 韓国NEC社を設立（6/20）
- オーストラリアCSG社のITサービス事業を買収（5/30）
- 米国コンバージス社の事業支援システム事業の買収完了（5/17）



節電機能を強化した「Mate」（左）と「VersaPro」



**業績予想（補足）**

# 業績予想サマリー

上期予想

(単位:億円)

	第2四半期 <7～9月>		
	11年度 実績	12年度 予想	前年 同期比
売上高	7,741	7,685	△ 0.7%
営業利益 対売上高比率(%)	262 3.4%	89 1.2%	△ 173
経常損益 対売上高比率(%)	192 2.5%	△ 38 -	△ 231
当期純損益 対売上高比率(%)	187 2.4%	△ 61 -	△ 249

1株当たり 当期純損益(円)
-------------------

上期 <4～9月>		
11年度 実績	12年度 予想	前年 同期比
14,432	14,000	△ 3.0%
68 0.5%	10 0.1%	△ 58
△ 104 -	△ 160 -	△ 56
△ 110 -	△ 240 -	△ 130
△ 4.23	△ 9.24	△ 5.01

参考：12年度の為替レート前提 1ドル=75円、1ユーロ=100円

※ 予想値は、2012年7月31日現在



# セグメント別 業績予想サマリー

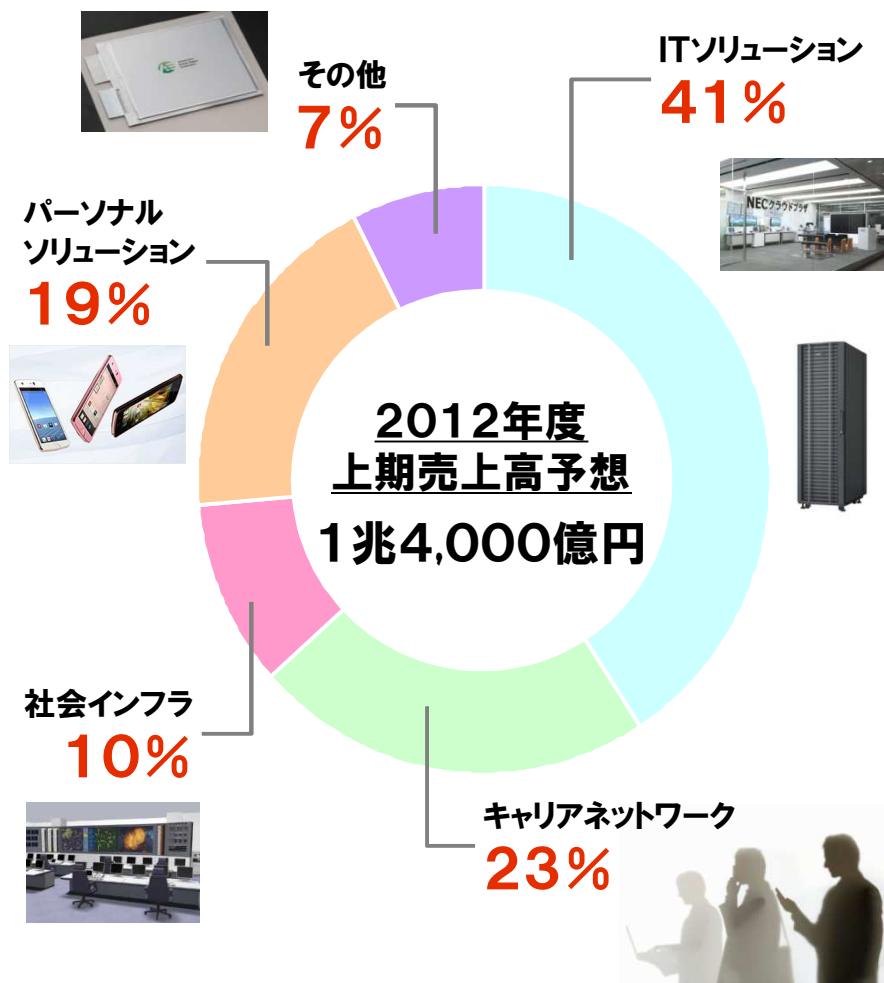
(単位:億円)

			第2四半期 <7~9月>			上期 <4~9月>		
			11年度 実績	12年度 予想	前年 同期比	11年度 実績	12年度 予想	前年 同期比
合 計	ITソリューション	売上高 営業利益 営業利益率(%)	2,993 136 4.5%	3,208 198 6.2%	7.2% 62	5,367 8 0.1%	5,700 140 2.5%	6.2% 132
	キャリアネットワーク	売上高 営業利益 営業利益率(%)	1,560 129 8.3%	1,737 58 3.3%	11.3% △ 71	2,835 153 5.4%	3,150 170 5.4%	11.1% 17
	社会インフラ	売上高 営業利益 営業利益率(%)	815 57 6.9%	858 46 5.4%	5.2% △ 11	1,403 61 4.3%	1,450 60 4.1%	3.3% △ 1
	パーソナル ソリューション	売上高 営業損益 営業利益率(%)	1,708 21 1.2%	1,325 10 0.7%	△ 22.4% △ 11	3,543 34 1.0%	2,650 △ 20 -	△ 25.2% △ 54
	そ の 他	売上高 営業利益 営業利益率(%)	665 43 6.5%	557 54 9.7%	△ 16.3% 11	1,285 30 2.4%	1,050 40 3.8%	△ 18.3% 10
	消去・配賦不能	営業損益	△ 123	△ 277	△ 154	△ 218	△ 380	△ 162
合 計		売上高 営業利益 営業利益率(%)	7,741 262 3.4%	7,685 89 1.2%	△ 0.7% △ 173	14,432 68 0.5%	14,000 10 0.1%	△ 3.0% △ 58

※ 予想値は、2012年7月31日現在

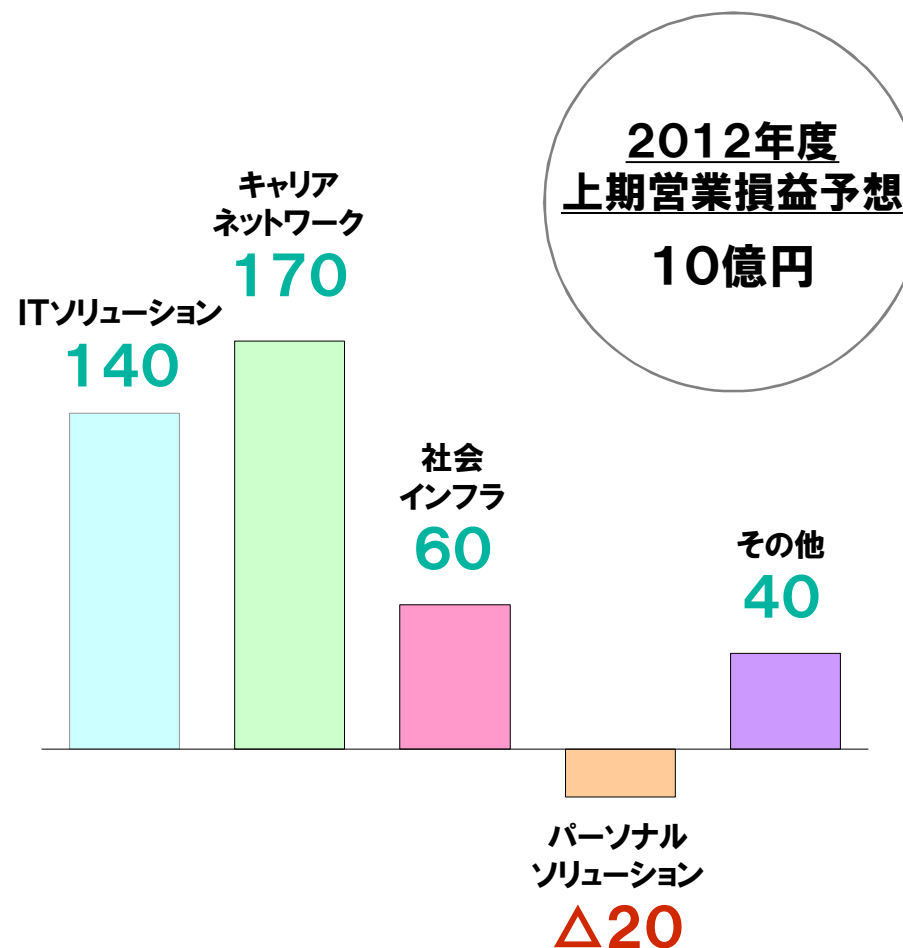
# セグメント別 業績予想サマリー

## 売上高



## 営業損益

(億円)



※ 予想値は、2012年7月31日現在

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位:億円)

	11年度 実績	12年度 予想	前年度比
設備投資額	420	500	19.1%
減価償却費	533	550	3.2%
研究開発費	1,620	1,700	5.0%
連結売上高比率	5.3%	5.4%	



※ 予想値は、2012年7月31日現在（4月27日の前回予想から変更ありません）

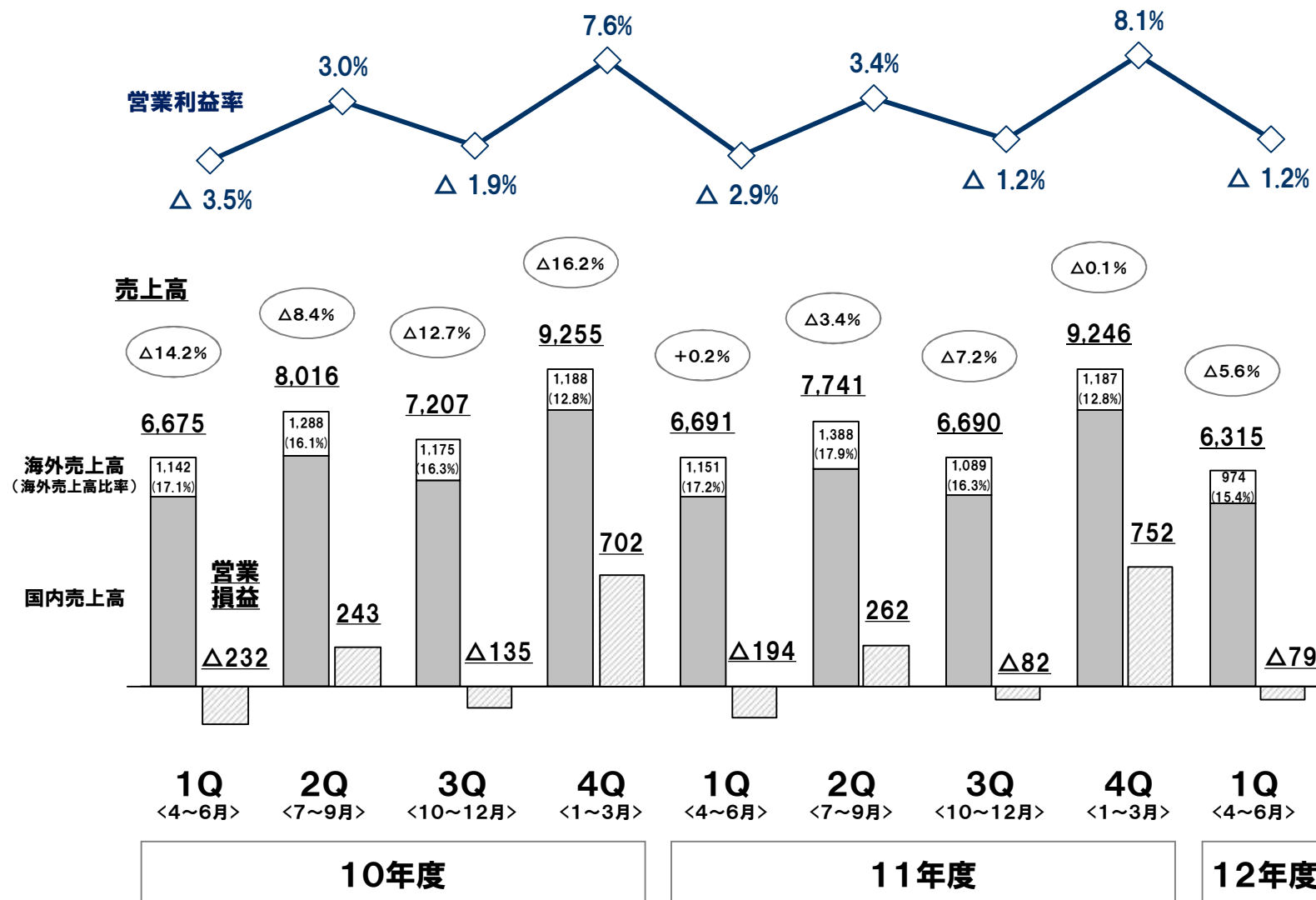


**参考資料（業績データ）**

# 全社売上高・営業損益推移

(億円)

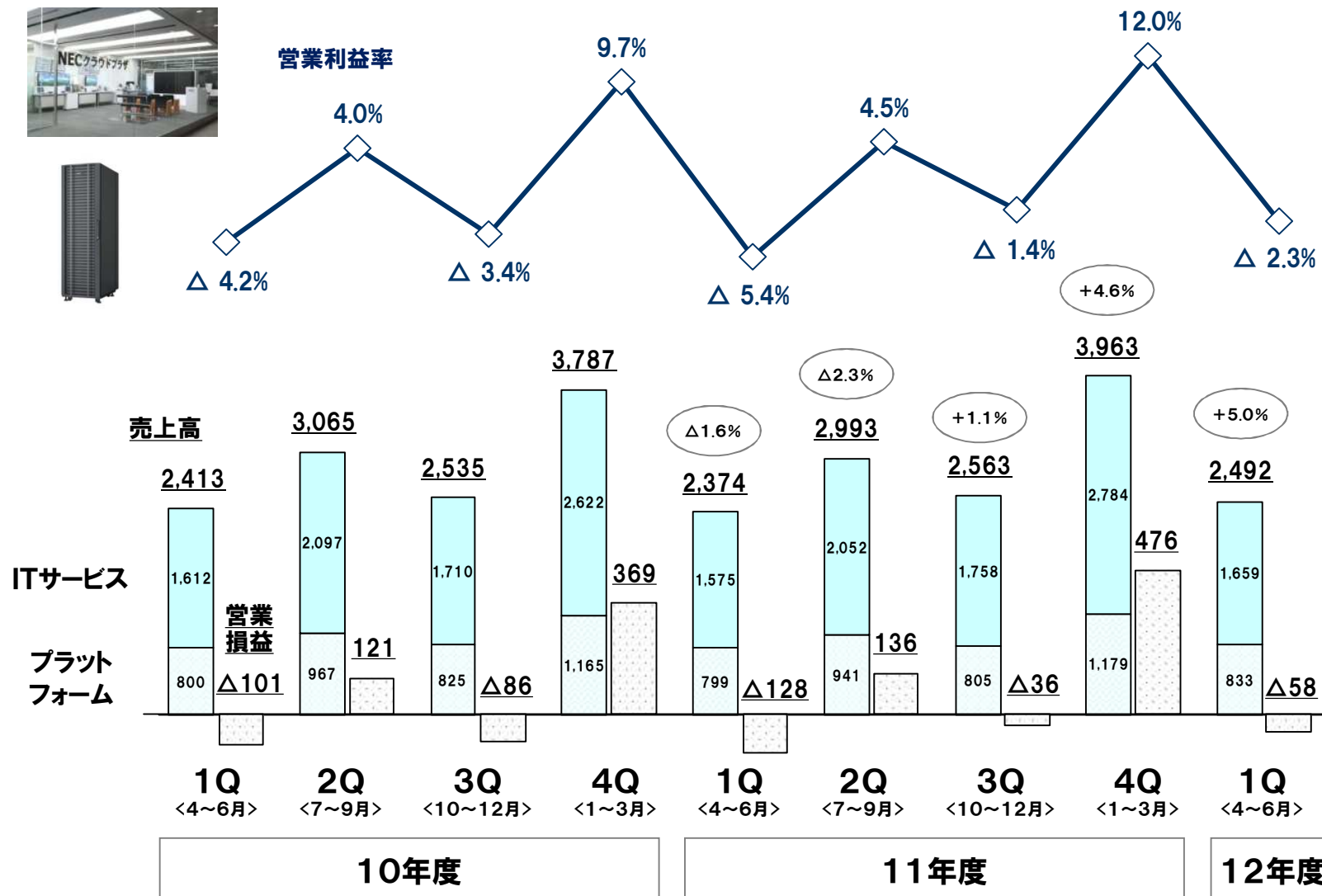
前年  
同期比



# ITソリューション事業 売上高・営業損益推移

(億円)

前年  
同期比

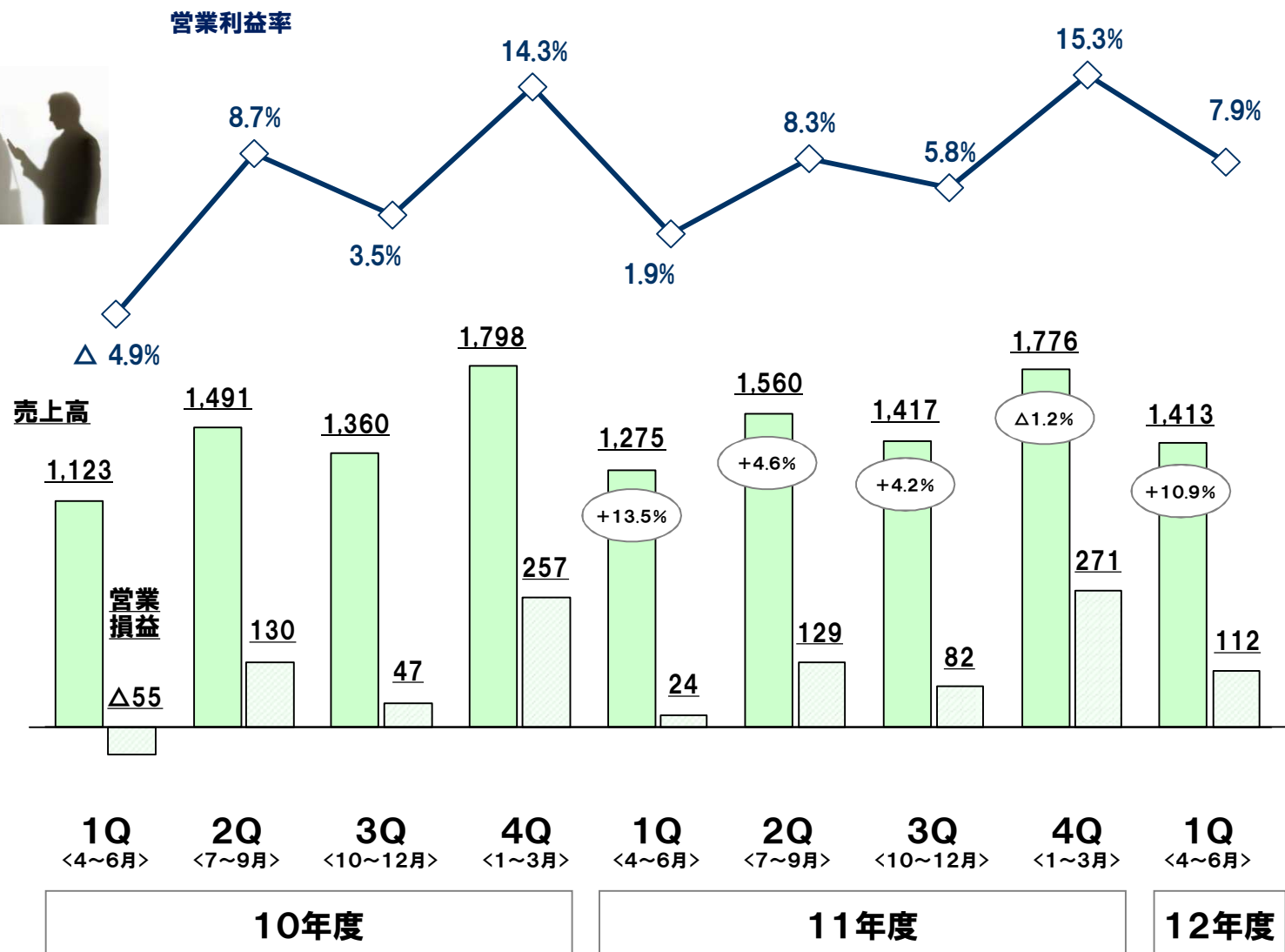




# キャリアネットワーク事業 売上高・営業損益推移

(億円)

前年  
同期比

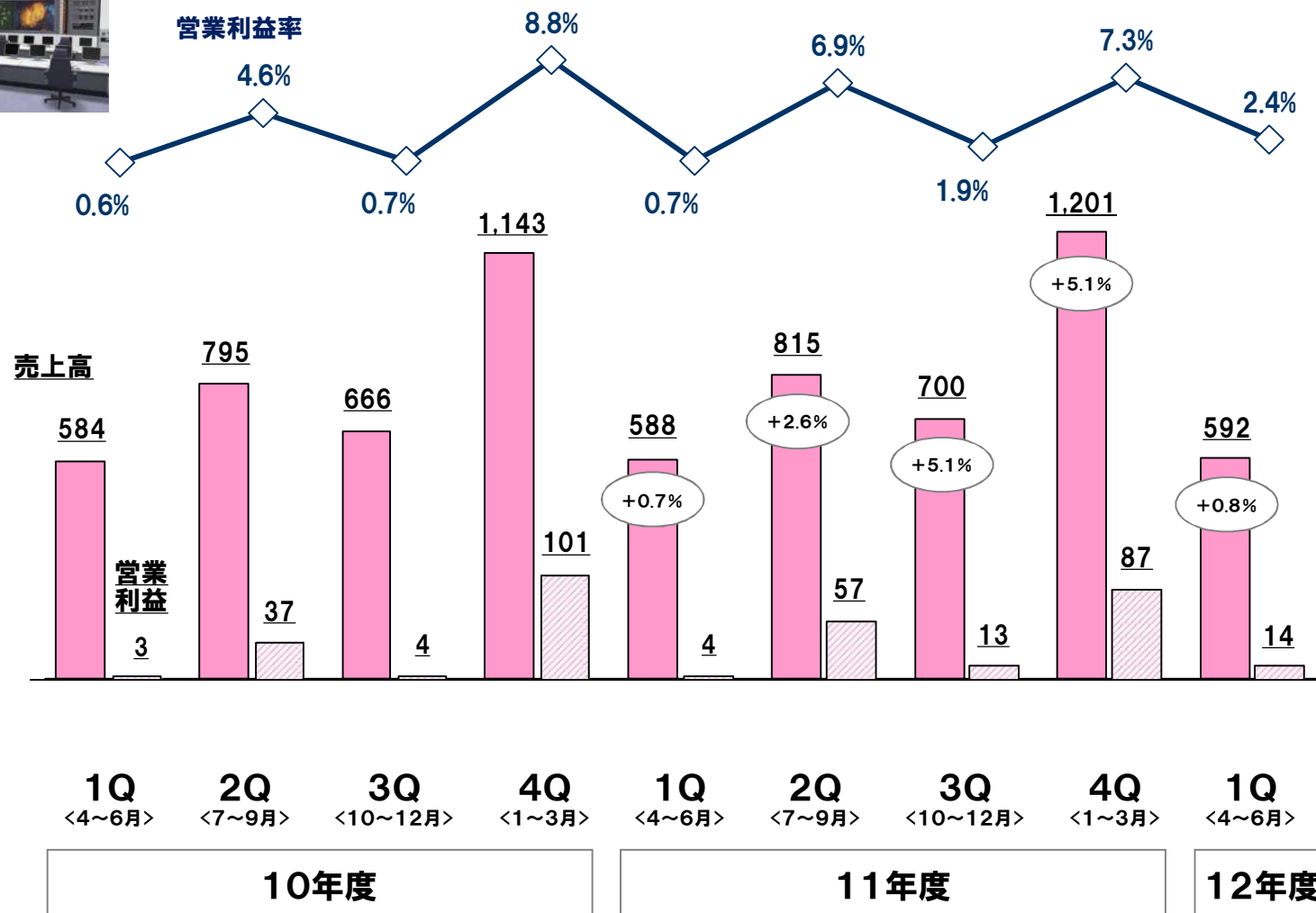


# 社会インフラ事業 売上高・営業損益推移



(億円)

前年  
同期比

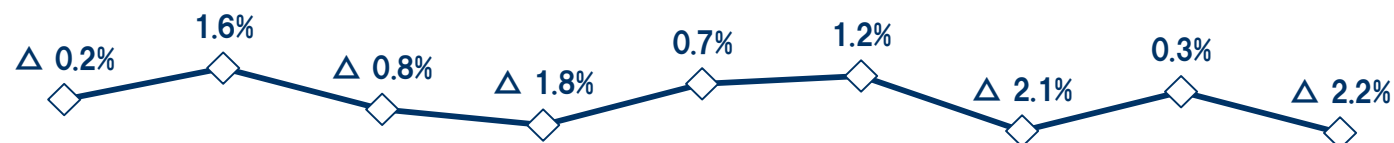


# パーソナルソリューション事業 売上高・営業損益推移

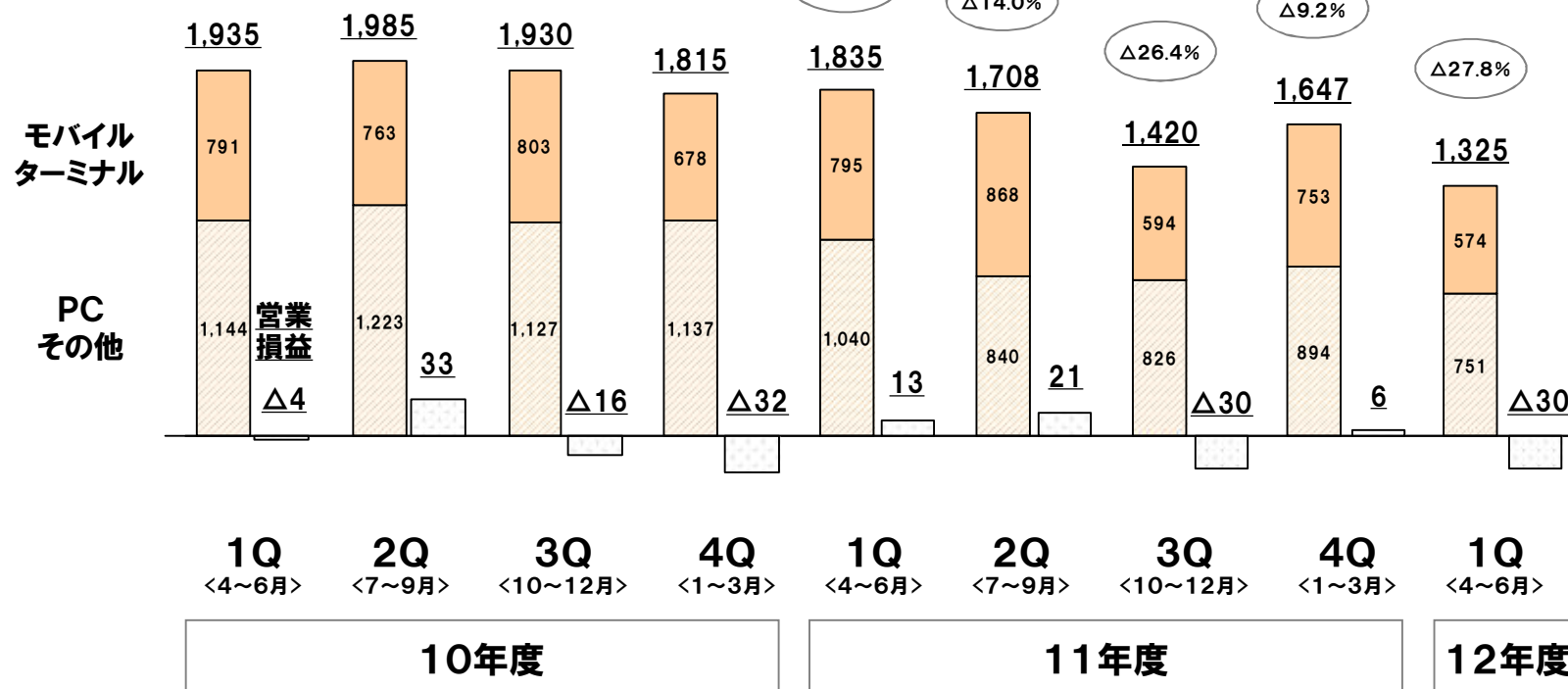
(億円)

前年  
同期比

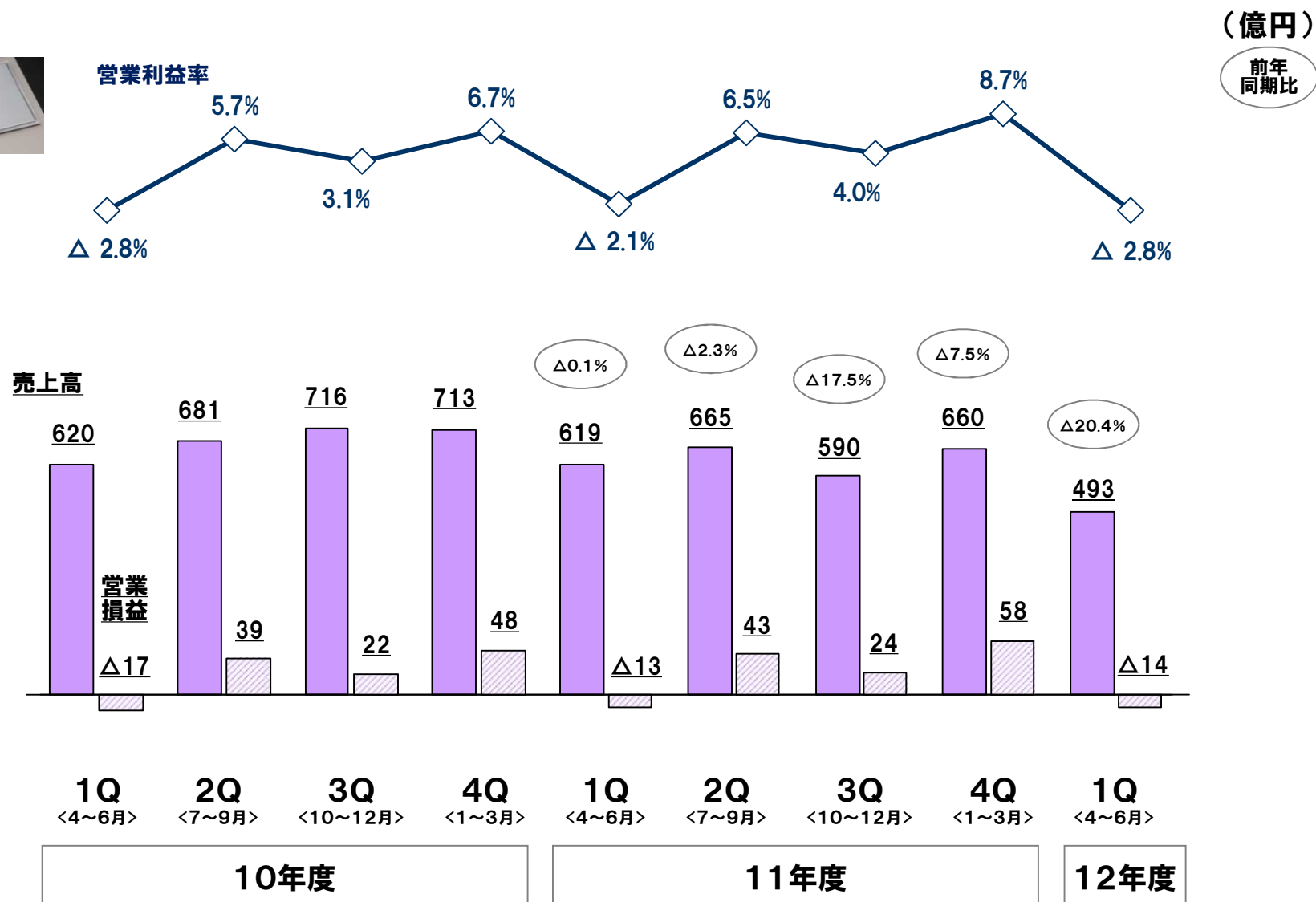
営業利益率



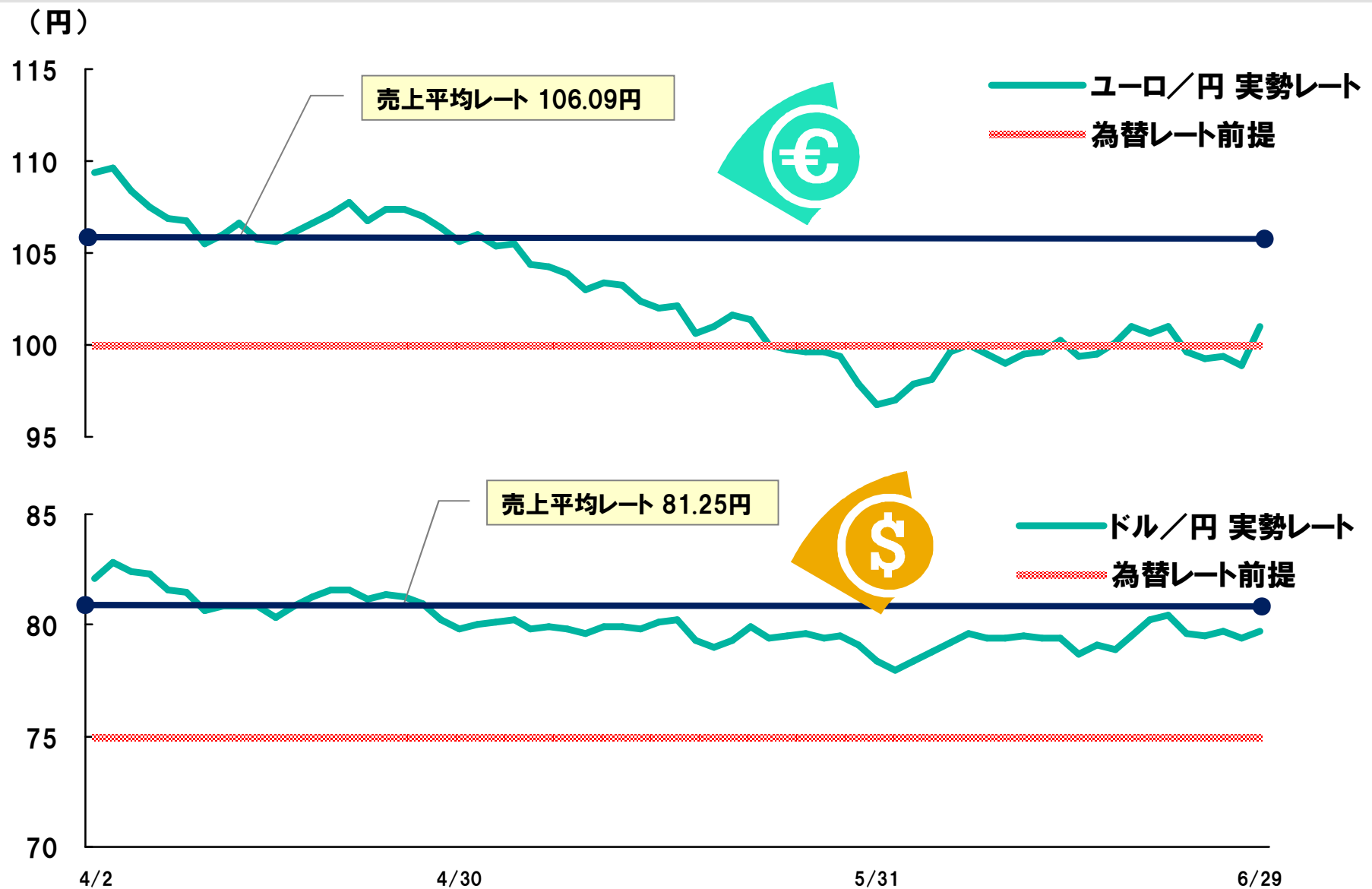
売上高



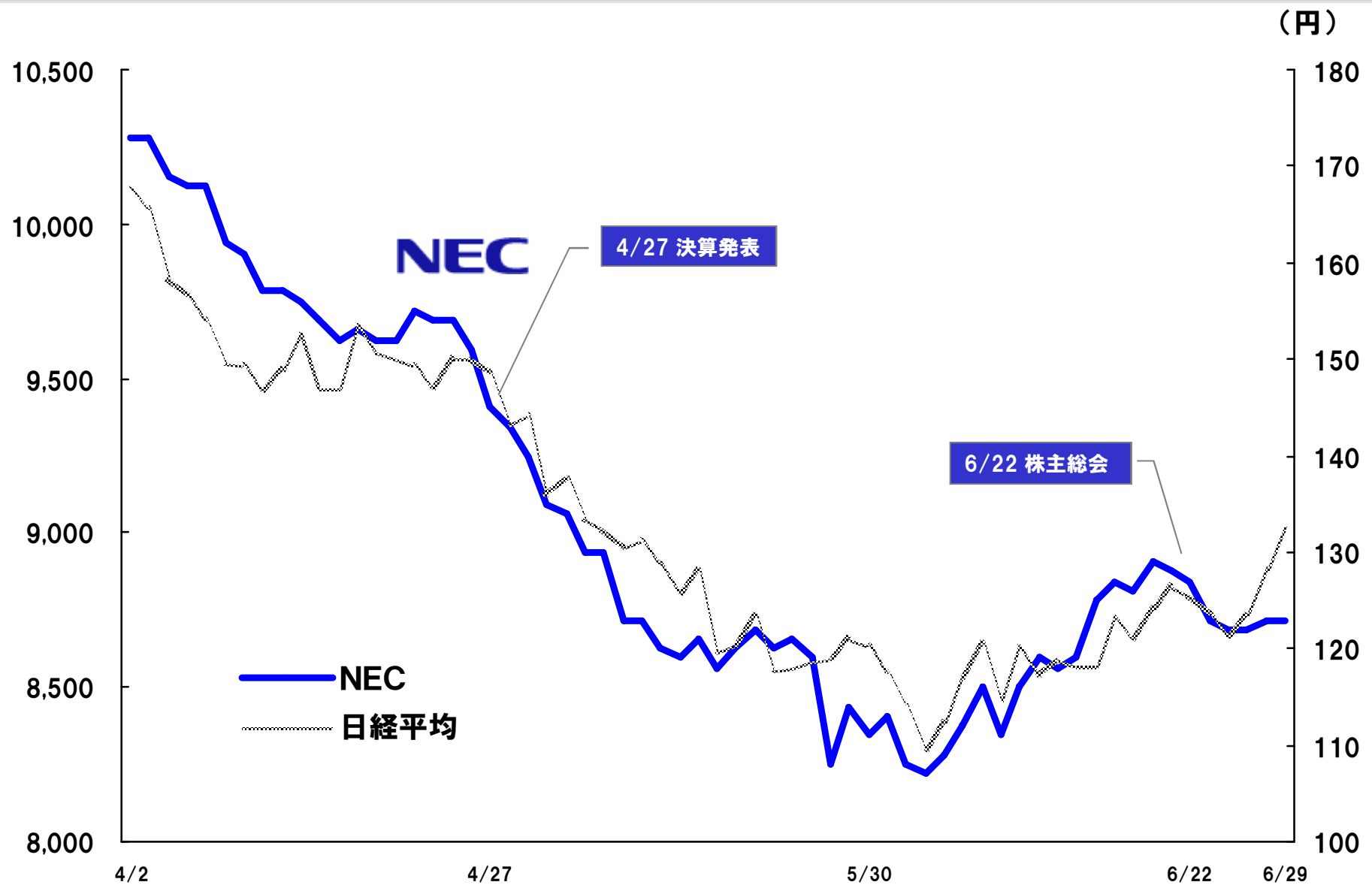
# その他 売上高・営業損益推移



# 為替レートの推移



# 株価の推移



#### ＜将来予想に関する注意＞

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1) NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2) 市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4) NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5) NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6) 市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7) 為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8) NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9) NECに対する規制当局による措置や法的手続きによる影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

#### （注）

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。

年度表記について、2010年度は2011年3月期、2011年度は2012年3月期（以下同様）を表しています。